怜野集

秋下

特別
イ4
3163
31(5)

貴
14
3163
31(5)

二日月　新月　夕月夜　弓弦月　月盛
十五夜　八月十五夜　十五夜観月　八月十五夜観月　十五夜暁
十六夜月　臥待月　左明月　十三夜　月前星
月明星稀　雲間月　見月厭雲　月前雲
月前雲　雲收月明　夜雲收盡月行遲　雨夜思月　雨後月
霧間月　風前月　月前松風　月前虫風　月前露
暁月　閑居暁月　蘆中暁月　海路暁月　海上暁月
潮路暁月　行路暁月　田家暁月　山家暁月　社頭暁月
冷山暁月　朝月如晝　月光夜　秋夜月　晴夜月
深夜月　深更月　秋山月　閑山月
深山月　山端月　山月　月出山　澗底月
峯月

森月　林間月　檜原月　有明松　松間月
野月　野亭月　野徑月　行路月　野徑月
樵路月　橋月　月照古橋　水中月　山路月
水上秋月　月照水　月後山水　月照山水　水上月
月光松冰　月写水　河上月　河邊有　河有似冰
溝邊月　池上月　沼上月　江上月　海上月
月南海上　海邊月　沖月　海上月　濱月
浦秋月　崎月　波間月　島月
海路月　海路見月　水路月　松中月　月夜舟
湖上月明　花洛月　禁庭月　湖邊月　湖上月
社頭月　古寺月　寺邊月　乘月觀瀑流　月宮有路無行人
山家月　山家秋月

山家殘月　山居月　田家月　閑居月
閑中月　宋見月　月歌滿屋　月見思舊友
庭上月　荒屋月　故宅月　故郷月　古宮月
里月　関月　關路月　關屋月　名所月
姨捨山月　旅宿待月　旅泊待月　旅宿見月
旅中十五夜　月前旅行　旅宿曉月　月前旅宿　月前旅泊
月旅中友　見月思旅客　月夜思都　月夜思故郷　月前遠望
月前眺望　月夜興　月前鶴　月前鷄　月似雲
秋月勝春花　月撰霧　浦崖鳴月　月似霜　月照衣
月似鏡　月慰心　夢後見月　月爲友　月開中友
月灵秋友　月每秋友　月生涯友　月照衣　袖上月

對月戀人　月前思友　月夜待友　月前待人　客依月来
月夜逢友　依月尋友　月前談往事　惜月　暁惜月
對月惜秋　殘月　暮秋月　暮秋殘月
老後見月　見月傷老　老後月　月前情
月妻遠情　月前遠情　月前幽情　月前思　月前幽思
見月延思　見月傷心　月前言志　愁人對月　見月思西
月添秋思　見月戀古人　對月悶昔　對月忍昔
月契秋　月如奮　月契来世　月契来秋　月催涙
月前懐奮　月前祝　寄月祝　寄月餞別
月前餞別　寄月神祇　月前述懐　寄月述懐
鴈　待鴈　鴈未来　初雁

早雁　雁知秋　風前雁来　風前初雁　聞初雁
曙初鴈　遠初鴈　毎秋鴈来　旅鴈　雲外雁
雲間雁　風前聞鴈　雨中雁　霧中鴈　霧河鴈
聞雁　夜聞鴈　夜く聞鴈　月前雁　暁聞雁
朝聞雁　鴈行写水　羣鴈　孤鴈　旅中聞鴈
旅宿雁　旅行聞雁　海上一雁飛　田家鴈　聞鴈戀友
寄鴈述懐　霧　朝霧　朝霧　河朝霧
海邊朝霧　深山朝霧　夕霧　瀧邊霧
橋邊霧　河霧　暁霧　水路霧　暁霧隔船
霧底筏　霧中遠帆　秋霧隔河　島霧　浦霧
渡霧　野霧　海邊霧　杣霧　山路霧
霧籠山

霧隔山路　行路霧　　闌霧　　羈中霧
名所霧　　山家霧　　霧妨行路　　霧籠　　擣衣
聞擣衣　　遠聞擣衣　　夕擣衣　　暮秋霧　　夜擣衣
絶夜擣衣　　連夜擣衣　　閨夜擣衣　　夜擣衣　　涼夜擣衣
風前擣衣　　擣衣怨　　擣衣幽　　寢覚擣衣　　月前聞擣衣
擣衣驚眠　　擣衣驚夢　　蘆屋擣衣　　閨中擣衣　　月下擣衣
里擣衣　　水郷擣衣　　湖邊擣衣　　隣擣衣　　不眠聞擣衣
故郷擣衣　　山家擣衣　　名所擣衣　　旅宿擣衣　　島擣衣
暮秋擣衣　　暁鴫　　田家鴫　　待人擣衣　　風前聞鶉
野鶉　　鶉狩　　故郷鶉　　山家鶉
蘆屋鶉　　蟇鶉　　霧中聞鶉

九日　　重陽宴　　閏九月九日　　九日菊　　菊
菊花第一　　栽菊　　移菊　　年々栽菊　　菜花盛
菊盛久　　白菊　　紫菊　　菊花色々　　折菊
挿頭菊　　菊露　　菊葉　　菊露　　愛菊
月前白菊　　月前折菊　　月照菊花　　菊籬月　　菊花如雪
禁庭菊　　古宅菊　　故郷菊　　山路菊　　名所菊
菊映水　　岸頭白菊　　河邊菊　　菊花臨水　　水邊菊
菊花秋久　　菊花久薫　　菊送炎秋　　菊契炎秋　　菊契千秋
菊上霜　　菊帯霜　　老人對菊　　寄菊祝　　残菊
残菊白　　對菊待人　　閏九月菊　　寄菊述懐　　籬紅葉
柞紅葉　　楓紅葉　　蔦　　檻紅葉　　庵紅葉

紅葉
山路落葉
麓紅葉
林葉漸紅
紅葉色々
夕見紅葉
夜紅葉
雨中紅葉
霧添紅葉
山家紅葉
紅葉前待人
對山待紅葉
深山紅葉
岡紅葉
紅葉逐日深
紅葉有遲速
年ミ見紅葉
月前紅葉
雨後紅葉
紅葉秀透霧
里紅葉
紅葉留客
初紅葉
遠山紅葉
林紅葉
紅葉深
紅葉未遍
紅葉似錦
紅葉曝錦
雨染紅葉
霧收竜紅葉
閑居紅葉
見紅葉忘歸
原紅葉
山紅葉
山皆紅葉
森紅葉
紅葉色深
紅葉遍
朝見紅葉
紅葉盛
露染秋山
霧中紅葉
古宅紅葉
折紅葉
野紅葉
山路紅葉
嶺上紅葉
紅葉未色猶淺
紅葉淺深
朝見紅葉
紅葉盛
雨染紅葉
霧收竜紅葉
閑居紅葉
見紅葉忘歸
原紅葉

故郷紅葉
名所紅葉
社頭紅葉
河邊紅葉
紅葉映水
紅葉染水
淵紅葉
兼惜紅葉
嵐送紅葉
紅葉猶殘
紅葉秋深
松間紅葉
行路紅葉
社邊紅葉
水邊紅葉
紅葉浮水
岸紅葉
寄神祇紅葉
風前紅葉
紅葉欲散
寄紅葉述懷
見紅葉言志
紅葉送秋
松陽紅葉
馬上見紅葉
古寺紅葉
海邊紅葉
紅葉每水浮
紅葉滿綱代
瀧紅葉
夜思紅葉
紅葉厭風
紅葉易散
惜秋
紅葉交松
紅葉埋路
紅葉幣
浦紅葉
水上紅葉
瀧紅葉
思紅葉
紅葉隨風
紅葉散
寄紅葉懷旧
年ゝ惜秋
松邊紅葉
關路紅葉
旅中紅葉
紅葉滿流
紅葉浮浪
谷紅葉
惜紅葉
風送紅葉
紅葉如雨
暮秋紅葉
閑中惜秋

老惜秋　惜秋似戀　旅中惜秋　秋不留　暮秋
暮秋月　暮秋風　暮秋雨　暮秋雲　暮秋霜
暮秋曉　野暮秋　暮秋森　山家暮秋　田家暮秋
幽居暮秋　河上暮秋　泊暮秋　海邊暮秋　羈旅暮秋
行路秋暮　惜暮秋　暮秋懷　暮秋傷老　暮秋待人
暮秋餞別　暮秋虫　暮秋述懷　秋のはて　九月盡
惜九月盡　九月盡夕　九月盡夜　九月盡風　九月盡
雨中九月盡　山家九月盡　閏九月盡　秋天　秋天象
秋日　秋雲　秋嵐　秋霜 初霜同　秋寒々
秋曉　秋曙　秋朝　秋地儀　秋山
秋深山　秋野　秋野亭　秋野草　秋野遊

秋野忘歸　秋名所　秋水　秋瀧
秋海　海邊秋　浦秋　秋溪
秋舟　秋里　秋山里　秋山家
秋田家　秋栖　秋閑居　秋庭
秋故郷　社頭秋　秋植物
秋木　秋栢　秋神祇　秋寺
秋動物　秋獣　秋葉　緑竹不辨秋
炎色　秋聲　秋鳥　秋蟲
秋遠情　秋思 秋懷同　秋視聽　秋心
寄露秋思　寄露秋思　寄薄秋思　寄鹿秋思
野外秋思　山家秋思　秋述懷　秋懷舊　寄紅葉秋思
秋恨

憐秋　秋手向
秋鐘　秋袖
秋旅　秋扇
七月　秋見
秋衣
秋行路
八月　秋芭
秋錢別
秋山路
閏九月　秋別
秋祝
秋關路
九月

三日月　金のくかわで入るる夕月秋いたる　文彦
新月　千様のそれの秋ぞそらぬまもそれのふかきゆく秋の夕月　立隆
夕月夜　風の音が秋をそうねまるる夕月代　後拾遺
弓張月　わまさる河そひ小田のいねぜぬそこほのめそうる夕月　後拾遺
月雲　野邊多くる園山のをるうら光ける月　後拾遺
十五夜　代　明月にうたうしてうしてうして

八月十五夜

いにしへの天津空より秋の九月　雅正
後いにしへの月をねて秋の夜の　志賀
後拾遺の面影四月まで　光原
後拾遺秋の妹と秋を今宵月　素
金さやかなる月ひとつ　親房
朝月夜小倉山　朝隆
拾遺秋の夜の更行くまで　舞延
拾遺秋ごとに秋の名ながら月　光蓮
拾遺秋ごとに秋のまどをもる月　親房

十三夜

月毎にみる月なれど八月の　定家
今宵の月をいかで見るらん　隆季
同まことや後の月をいかで見る　雅正
後拾遺秋の夜ながらの月　隆衡
後拾遺秋の夜ながらの月　成秀
後拾遺秋の夜ながらの月　雅行
後拾遺秋の夜ながらの月　朝隆
後拾遺秋の夜ながらの月　舞延
後拾遺秋の夜ながらの月　光蓮
後拾遺秋の夜ながらの月　親房
後拾遺秋の夜ながらの月　光原
後拾遺秋の夜ながらの月　素
後拾遺秋の夜ながらの月　親房
後拾遺秋の夜ながらの月　隆衡
後拾遺秋の夜ながらの月　隆輔

十四夜

わくらばに又妹のすむべき　定家
代くまもなき月をみる哉　隆季
はるばるく秋の末までも　雅正
代ごとに家世のつかさも　仲正
代君ごとにかはらぬ影を　信実
代君のみ代うつりぬる秋の月　定通
代ながめてもなほあかぬ月かな　雅行
代ながめてもなほあかぬ月かな　朝隆
代ながめてもなほあかぬ月かな　舞延
代ながめてもなほあかぬ月かな　光蓮
代ながめてもなほあかぬ月かな　親房
代ながめてもなほあかぬ月かな　光原
代ながめてもなほあかぬ月かな　素
代ながめてもなほあかぬ月かな　親房
代ながめてもなほあかぬ月かな　隆衡
代ながめてもなほあかぬ月かな　隆輔

十五夜

秋の月ちぢにかげをぞ　定家
秋の月ちぢにかげをぞ　隆季
秋の月ちぢにかげをぞ　雅正
秋の月ちぢにかげをぞ　仲正
秋の月ちぢにかげをぞ　信実
秋の月ちぢにかげをぞ　定通
秋の月ちぢにかげをぞ　雅行
秋の月ちぢにかげをぞ　朝隆
秋の月ちぢにかげをぞ　舞延
秋の月ちぢにかげをぞ　光蓮
秋の月ちぢにかげをぞ　親房
秋の月ちぢにかげをぞ　光原
秋の月ちぢにかげをぞ　素
秋の月ちぢにかげをぞ　親房
秋の月ちぢにかげをぞ　隆衡
秋の月ちぢにかげをぞ　隆輔

十六夜

はるばるく秋の末までも　定家
代君ごとにかはらぬ影を　隆季
代君のみ代うつりぬる秋の月　仲正
代ながめてもなほあかぬ月かな　信実
代ながめてもなほあかぬ月かな　定通
代ながめてもなほあかぬ月かな　雅行
代ながめてもなほあかぬ月かな　朝隆
代ながめてもなほあかぬ月かな　舞延
代ながめてもなほあかぬ月かな　光蓮
代ながめてもなほあかぬ月かな　親房
代ながめてもなほあかぬ月かな　光原
代ながめてもなほあかぬ月かな　素
代ながめてもなほあかぬ月かな　親房
代ながめてもなほあかぬ月かな　隆衡
代ながめてもなほあかぬ月かな　隆輔

卅日待月

君ごとにかはらぬ影を　定家
君のみ代うつりぬる秋の月　隆季
代ながめてもなほあかぬ月かな　雅正
代ながめてもなほあかぬ月かな　仲正
代ながめてもなほあかぬ月かな　信実
代ながめてもなほあかぬ月かな　定通
代ながめてもなほあかぬ月かな　雅行
代ながめてもなほあかぬ月かな　朝隆
代ながめてもなほあかぬ月かな　舞延
代ながめてもなほあかぬ月かな　光蓮
代ながめてもなほあかぬ月かな　親房
代ながめてもなほあかぬ月かな　光原
代ながめてもなほあかぬ月かな　素
代ながめてもなほあかぬ月かな　親房
代ながめてもなほあかぬ月かな　隆衡
代ながめてもなほあかぬ月かな　隆輔

左明月

君のみ代うつりぬる秋の月　定家
秋の月ちぢにかげをぞ　隆季
秋の月ちぢにかげをぞ　雅正
秋の月ちぢにかげをぞ　仲正
秋の月ちぢにかげをぞ　信実
秋の月ちぢにかげをぞ　定通
秋の月ちぢにかげをぞ　雅行
秋の月ちぢにかげをぞ　朝隆
秋の月ちぢにかげをぞ　舞延
秋の月ちぢにかげをぞ　光蓮
秋の月ちぢにかげをぞ　親房
秋の月ちぢにかげをぞ　光原
秋の月ちぢにかげをぞ　素
秋の月ちぢにかげをぞ　親房
秋の月ちぢにかげをぞ　隆衡
秋の月ちぢにかげをぞ　隆輔

十二夜

秋の月ちぢにかげをぞ　定家
月の秋とふさへうらめしき　隆季
月ともやそれぬる秋の十日餘り　雅正
月ともやそれぬる秋の十日餘り　仲正
月ともやそれぬる秋の十日餘り　信実
月ともやそれぬる秋の十日餘り　定通
月ともやそれぬる秋の十日餘り　雅行
月ともやそれぬる秋の十日餘り　朝隆
月ともやそれぬる秋の十日餘り　舞延
月ともやそれぬる秋の十日餘り　光蓮
月ともやそれぬる秋の十日餘り　親房
月ともやそれぬる秋の十日餘り　光原
月ともやそれぬる秋の十日餘り　素
月ともやそれぬる秋の十日餘り　親房
月ともやそれぬる秋の十日餘り　隆衡
月ともやそれぬる秋の十日餘り　隆輔

代
今
月
同
代
代
代
後拾
代
後拾
代
後拾

風前月　　金　　經信
月前風　　野　　通光
　　　　　　　　家隆
有明風　　野　　定家
　　　　　　　　家隆
月前松風　　野　　長明
有朋遠　　金　　孟郊
曉月　　代　　不識讀人
　　　　　　　　伊平
有朋遠　　野　　保季

月前旅宿

旅宿曉月　　代　　讃岐

雨後曉月　　代　　通光

曉中曉月　　代　　伊勢大輔

海邊曉月　　野　　和泉式部

海上曉月　　野　　源俊頼

閨夜曉月　　野　　藤原俊成

行路曉月　　金　　家隆

田家曉月　　金　　永縁

山家曉月　　代　　敦隆

社頭曉月　　野　　孝標女

關山曉月　　代　　源政

明月如晝　後拾遺　この月をせばくまれ神へるとも　曾禰
　　ひかりもそへてぞまもらん　好忠
月光を夜　今昔　月をとてこれや眺めん　こし紙
秋若月　續後撰　秋の夜もいたくふけゆくしるらく　曾禰
曉若月　代々集　ながめつるかなたのそらもしらぬまに　元輔
宵若月　代々集　ながめそめてもいまだ出ぬ後をかなそぬ秋のそら　曾禰
深更月　金葉　秋の夜の月ぞ浦風小浪井こそとると見えし　經信
　　代々集　ながめつるかなたのそらもしらぬまに　元輔
　　續古今　ながめそめてもいまだ出ぬ後をかなそぬ秋のそら　曾禰
　　万代　秋の夜の月ぞ浦風小浪井こそとると見えし　經信
　　後拾遺　秋風にたなびく雲のたえまより漏れ出づる月の影のさやけさ　良暹

峰月　金浦山ゝうに世ばなれそいう井ゝまるん笠月をとる袖
月出山　月結ぬ小夜ゝやりと月新のうすな氷峰ば見てぞ
洞庭月　月ぐらのそこをかる峰ゝ氷ゝるさぞゝゝ
秋洞月　三笠山峰ゝらむる月ぐのて津ゝ小照まるゝる
檜原月　洞庭入て絵ぞゝと山ゝ錦ばいぬ月のゝるなる笠
月照ス松ヶ　代にくぐの山ゝ氷のまゝ鏡みそゝる秋のそゝ月
今渡ゝうゝゝもの至小雪園のかゝゝゝる月をとるゝん
千　照月の旅ゝの庭ゝゝゝ

樵夫月　勅撰
橋月　洩てくる光も涼しき橋の秋　仁和寺
月照二石橋一　金と見て人や通らん石の橋　二条
水中月　水底の月をくみ見ん秋の夜は　後徳大寺
水上月　古二つ見ぬとやいはん秋の月　永享
月前秋　四月の光のみてる秋の夜は　経信
同雲外浪　雲も浪うつ心なるらん　六条
詞　名にめでゝ西に行ぬる月の影　志貴親王
月前述懐　さやけさに世をうぢ山の秋の月　分基
続　月影の高くすみ行秋の夜は　親房
代　さゝ波の志賀の都をうつしても　為尹
月前旅宿　この井もなを都遠からぬ秋の月　純母
関月　須磨の関守もあかぬ秋の夜は　為定
月前遠情　雲井なる秋の月をぞ友とする　為定
月前懐旧　わすれじな昔ながらの秋の月　為定

月前述懐　代　月清し光も同じ秋の夜の　権律
月深山水　代　月ふかき山の井水に影見えて　経法
月前山水　代　月ふかき山の井水に影見えて　後法興院
月前山水　代　月ふかき山の井水に影見えて　後法興院
月前山水　代　月ふかき山の井水に影見えて　後法興院

秋月新古今を波小秋風ぞ吹　　謝朝
男　　家ごとに流るる波小月の影　　美人
千　　ふたゝびも帰らぬ秋の波の月　　信実
後　　秋の波の月もとまらぬ舟うれば　　美村
後撰　　沈みぬ夫の川や舟の底小月　　懐国
今　　ものゝふの八十うぢ川の網代木に　　権大納言
金　　夢ひとよ通ひぢ絶えぬ葦の葉の　　信実
続　　秋とやふるまぼろし線せねさびしき水鳥の　　源
続　　秋いまもうら波坂辺の苫ひさし　　頼政
後　　四月の流るゝ水の如くなれば　　丁百記
続　　ますらをと名の立つ浪わくごとき　　経重
　　秋の海小移れる月をたゞ一人　　前
千　　境が奥の浦吹風小雪晴て　　信実
続　　八十島とかつ見えつゝ亦ひとり秋の　　源
　　水鳥の　　不識読人

海辺月

秋もなほ更行く浦の月新小波の上小ふるさとの袖
男　　浪ごとの袖もまがきの哀をも　　家隆
千　　又それ海小移びきしてき　　家持
秋　　ありあけの月ぞ残れる浦小月出ぬより
同　　おとづれ難波の秋の初雁の
秋　　沖津風うつの浦小をし月小うき
千　　浪やるらの果ぞうらけく
金　　多くより浪のまきおの
秋　　それふるさと紀の国の秋のさ
秋　　松多やたほく浦の秋の
秋　　物わび浦のうほ木焼
千　　もとゞる浦々の風小吉昭て
秋　　更ゆく浦々わたる月小
　　ことせむ秋を多が嗚の

秋月

沖月
浜月
島月
雨秋月
嵩月

波間月　　代　秋の月浪のうへふくまつかぜ　長明
船中月　　代　ふるさとをこふるみさをの袖の露　月をうつせる波ぞくだくる　寂蓮法
月夜舟　　金　月影のさえゆくままに舟とめて　なほ行末を明石潟かな　家長
海路月　　代　遠ざかる浦のしほ風ふきまさり　月をのこして沖へこぐ舟　寂蓮法
海路見月　代　月ふかき入江の秋の夜の波に　ひとりぬれてや袖をしぼらん　俊光
水辺月　　野　跡たえて蘆の葉しろく霜おきて　月にかたしく芦の一ふし　家隆
湖邊月　　野　さざなみや志賀の都はあれにしを　昔ながらの山桜かな　俊成
湖上月　　代　波やひろきくもゐの入江ふく風に　月を消てもかへる舟人　俊光
湖水久澄　野　月影の清ねの浦をこぐ舟の　ほのかにかをる秋の夜の風　雅経
禁庭月　　後拾　ひさかたの月の桂の秋の風　ふきにけらしな天の川浪　俊秀
森下數流　後拾　ふりすてて今はかへらじ故郷も　月の都の秋の夜の空　俊秀
月宮有路無行人　千　ふるさとの月の都のかへるとて　ただいつとなく秋の夜の空　俊秀
社頭月　　千　ちはやぶる神のいがきに月さえて　もみぢの錦手向けぬるかな　寂蓮

古寺月　新　おかべ人やまも遠ねの峯小松ある秋の夜の月　長能

寺邊月　ねぬの月のり（以後消）　夜一四ノ一　夜一四ノ二　夜一四ノ三　夜一四ノ四　夜一四ノ五　夜一四ノ六　夜一四ノ七　夜一四ノ八　夜一四ノ九　夜一四ノ十　夜一四ノ十一　夜一四ノ十二　夜一四ノ十三　夜一四ノ十四　夜一四ノ十五　夜一四ノ十六　夜一四ノ十七　夜一四ノ十八　夜一四ノ十九　夜一四ノ二十　夜一四ノ二十一　夜一四ノ二十二　夜一四ノ二十三　夜一四ノ二十四　夜一四ノ二十五　夜一四ノ二十六　夜一四ノ二十七　夜一四ノ二十八　夜一四ノ二十九　夜一四ノ三十　夜一四ノ三十一　夜一四ノ三十二　夜一四ノ三十三　夜一四ノ三十四　夜一四ノ三十五　夜一四ノ三十六　夜一四ノ三十七　夜一四ノ三十八　夜一四ノ三十九　夜一四ノ四十　夜一四ノ四十一　夜一四ノ四十二　夜一四ノ四十三　夜一四ノ四十四　夜一四ノ四十五　夜一四ノ四十六　夜一四ノ四十七　夜一四ノ四十八　夜一四ノ四十九　夜一四ノ五十　夜一四ノ五十一　夜一四ノ五十二　夜一四ノ五十三　夜一四ノ五十四　夜一四ノ五十五　夜一四ノ五十六　夜一四ノ五十七　夜一四ノ五十八　夜一四ノ五十九　夜一四ノ六十　夜一四ノ六十一　夜一四ノ六十二　夜一四ノ六十三　夜一四ノ六十四　夜一四ノ六十五　夜一四ノ六十六　夜一四ノ六十七　夜一四ノ六十八　夜一四ノ六十九　夜一四ノ七十　夜一四ノ七十一　夜一四ノ七十二　夜一四ノ七十三　夜一四ノ七十四　夜一四ノ七十五　夜一四ノ七十六　夜一四ノ七十七　夜一四ノ七十八　夜一四ノ七十九　夜一四ノ八十　夜一四ノ八十一　夜一四ノ八十二　夜一四ノ八十三　夜一四ノ八十四　夜一四ノ八十五　夜一四ノ八十六　夜一四ノ八十七　夜一四ノ八十八　夜一四ノ八十九　夜一四ノ九十　夜一四ノ九十一　夜一四ノ九十二　夜一四ノ九十三　夜一四ノ九十四　夜一四ノ九十五　夜一四ノ九十六　夜一四ノ九十七　夜一四ノ九十八　夜一四ノ九十九　夜一四ノ百　夜一四ノ百一　夜一四ノ百二　夜一四ノ百三　夜一四ノ百四　夜一四ノ百五　夜一四ノ百六　夜一四ノ百七　夜一四ノ百八　夜一四ノ百九　夜一四ノ百十　夜一四ノ百十一　夜一四ノ百十二　夜一四ノ百十三　夜一四ノ百十四　夜一四ノ百十五　夜一四ノ百十六　夜一四ノ百十七　夜一四ノ百十八　夜一四ノ百十九　夜一四ノ百二十　夜一四ノ百二十一　夜一四ノ百二十二　夜一四ノ百二十三　夜一四ノ百二十四　夜一四ノ百二十五　夜一四ノ百二十六　夜一四ノ百二十七　夜一四ノ百二十八　夜一四ノ百二十九　夜一四ノ百三十　夜一四ノ百三十一　夜一四ノ百三十二　夜一四ノ百三十三　夜一四ノ百三十四　夜一四ノ百三十五　夜一四ノ百三十六　夜一四ノ百三十七　夜一四ノ百三十八　夜一四ノ百三十九　夜一四ノ百四十　夜一四ノ百四十一　夜一四ノ百四十二　夜一四ノ百四十三　夜一四ノ百四十四　夜一四ノ百四十五　夜一四ノ百四十六　夜一四ノ百四十七　夜一四ノ百四十八　夜一四ノ百四十九　夜一四ノ百五十　夜一四ノ百五十一　夜一四ノ百五十二　夜一四ノ百五十三　夜一四ノ百五十四　夜一四ノ百五十五　夜一四ノ百五十六　夜一四ノ百五十七　夜一四ノ百五十八　夜一四ノ百五十九　夜一四ノ百六十　夜一四ノ百六十一　夜一四ノ百六十二　夜一四ノ百六十三　夜一四ノ百六十四　夜一四ノ百六十五　夜一四ノ百六十六　夜一四ノ百六十七　夜一四ノ百六十八　夜一四ノ百六十九　夜一四ノ百七十　夜一四ノ百七十一　夜一四ノ百七十二　夜一四ノ百七十三　夜一四ノ百七十四　夜一四ノ百七十五　夜一四ノ百七十六　夜一四ノ百七十七　夜一四ノ百七十八　夜一四ノ百七十九　夜一四ノ百八十　夜一四ノ百八十一　夜一四ノ百八十二　夜一四ノ百八十三　夜一四ノ百八十四　夜一四ノ百八十五　夜一四ノ百八十六　夜一四ノ百八十七　夜一四ノ百八十八　夜一四ノ百八十九　夜一四ノ百九十　夜一四ノ百九十一　夜一四ノ百九十二　夜一四ノ百九十三　夜一四ノ百九十四　夜一四ノ百九十五　夜一四ノ百九十六　夜一四ノ百九十七　夜一四ノ百九十八　夜一四ノ百九十九　夜一四ノ二百　夜一四ノ二百一　夜一四ノ二百二　夜一四ノ二百三　夜一四ノ二百四　夜一四ノ二百五　夜一四ノ二百六　夜一四ノ二百七　夜一四ノ二百八　夜一四ノ二百九　夜一四ノ二百十　夜一四ノ二百十一　夜一四ノ二百十二　夜一四ノ二百十三　夜一四ノ二百十四　夜一四ノ二百十五　夜一四ノ二百十六　夜一四ノ二百十七　夜一四ノ二百十八　夜一四ノ二百十九　夜一四ノ二百二十　夜一四ノ二百二十一　夜一四ノ二百二十二　夜一四ノ二百二十三　夜一四ノ二百二十四　夜一四ノ二百二十五　夜一四ノ二百二十六　夜一四ノ二百二十七　夜一四ノ二百二十八　夜一四ノ二百二十九　夜一四ノ二百三十　夜一四ノ二百三十一　夜一四ノ二百三十二　夜一四ノ二百三十三　夜一四ノ二百三十四　夜一四ノ二百三十五　夜一四ノ二百三十六　夜一四ノ二百三十七　夜一四ノ二百三十八　夜一四ノ二百三十九　夜一四ノ二百四十　夜一四ノ二百四十一　夜一四ノ二百四十二　夜一四ノ二百四十三　夜一四ノ二百四十四　夜一四ノ二百四十五　夜一四ノ二百四十六　夜一四ノ二百四十七　夜一四ノ二百四十八　夜一四ノ二百四十九　夜一四ノ二百五十　夜一四ノ二百五十一　夜一四ノ二百五十二　夜一四ノ二百五十三　夜一四ノ二百五十四　夜一四ノ二百五十五　夜一四ノ二百五十六　夜一四ノ二百五十七　夜一四ノ二百五十八　夜一四ノ二百五十九　夜一四ノ二百六十　夜一四ノ二百六十一　夜一四ノ二百六十二　夜一四ノ二百六十三　夜一四ノ二百六十四　夜一四ノ二百六十五　夜一四ノ二百六十六　夜一四ノ二百六十七　夜一四ノ二百六十八　夜一四ノ二百六十九　夜一四ノ二百七十　夜一四ノ二百七十一　夜一四ノ二百七十二　夜一四ノ二百七十三　夜一四ノ二百七十四　夜一四ノ二百七十五　夜一四ノ二百七十六　夜一四ノ二百七十七　夜一四ノ二百七十八　夜一四ノ二百七十九　夜一四ノ二百八十　夜一四ノ二百八十一　夜一四ノ二百八十二　夜一四ノ二百八十三　夜一四ノ二百八十四　夜一四ノ二百八十五　夜一四ノ二百八十六　夜一四ノ二百八十七　夜一四ノ二百八十八　夜一四ノ二百八十九　夜一四ノ二百九十　夜一四ノ二百九十一　夜一四ノ二百九十二　夜一四ノ二百九十三　夜一四ノ二百九十四　夜一四ノ二百九十五　夜一四ノ二百九十六　夜一四ノ二百九十七　夜一四ノ二百九十八　夜一四ノ二百九十九　夜一四ノ三百　夜一四ノ三百一　夜一四ノ三百二　夜一四ノ三百三　夜一四ノ三百四　夜一四ノ三百五　夜一四ノ三百六　夜一四ノ三百七　夜一四ノ三百八　夜一四ノ三百九　夜一四ノ三百十　夜一四ノ三百十一　夜一四ノ三百十二　夜一四ノ三百十三　夜一四ノ三百十四　夜一四ノ三百十五　夜一四ノ三百十六　夜一四ノ三百十七　夜一四ノ三百十八　夜一四ノ三百十九　夜一四ノ三百二十　夜一四ノ三百二十一　夜一四ノ三百二十二　夜一四ノ三百二十三　夜一四ノ三百二十四　夜一四ノ三百二十五　夜一四ノ三百二十六　夜一四ノ三百二十七　夜一四ノ三百二十八　夜一四ノ三百二十九　夜一四ノ三百三十　夜一四ノ三百三十一　夜一四ノ三百三十二　夜一四ノ三百三十三　夜一四ノ三百三十四　夜一四ノ三百三十五　夜一四ノ三百三十六　夜一四ノ三百三十七　夜一四ノ三百三十八　夜一四ノ三百三十九　夜一四ノ三百四十　夜一四ノ三百四十一　夜一四ノ三百四十二　夜一四ノ三百四十三　夜一四ノ三百四十四　夜一四ノ三百四十五　夜一四ノ三百四十六　夜一四ノ三百四十七　夜一四ノ三百四十八　夜一四ノ三百四十九　夜一四ノ三百五十　夜一四ノ三百五十一　夜一四ノ三百五十二　夜一四ノ三百五十三　夜一四ノ三百五十四　夜一四ノ三百五十五　夜一四ノ三百五十六　夜一四ノ三百五十七　夜一四ノ三百五十八　夜一四ノ三百五十九　夜一四ノ三百六十　夜一四ノ三百六十一　夜一四ノ三百六十二　夜一四ノ三百六十三　夜一四ノ三百六十四　夜一四ノ三百六十五　夜一四ノ三百六十六　夜一四ノ三百六十七　夜一四ノ三百六十八　夜一四ノ三百六十九　夜一四ノ三百七十　夜一四ノ三百七十一　夜一四ノ三百七十二　夜一四ノ三百七十三　夜一四ノ三百七十四　夜一四ノ三百七十五　夜一四ノ三百七十六　夜一四ノ三百七十七　夜一四ノ三百七十八　夜一四ノ三百七十九　夜一四ノ三百八十　夜一四ノ三百八十一　夜一四ノ三百八十二　夜一四ノ三百八十三　夜一四ノ三百八十四　夜一四ノ三百八十五　夜一四ノ三百八十六　夜一四ノ三百八十七　夜一四ノ三百八十八　夜一四ノ三百八十九　夜一四ノ三百九十　夜一四ノ三百九十一　夜一四ノ三百九十二　夜一四ノ三百九十三　夜一四ノ三百九十四　夜一四ノ三百九十五　夜一四ノ三百九十六　夜一四ノ三百九十七　夜一四ノ三百九十八　夜一四ノ三百九十九　夜一四ノ四百　夜一四ノ四百一　夜一四ノ四百二　夜一四ノ四百三　夜一四ノ四百四　夜一四ノ四百五　夜一四ノ四百六　夜一四ノ四百七　夜一四ノ四百八　夜一四ノ四百九　夜一四ノ四百十　夜一四ノ四百十一　夜一四ノ四百十二　夜一四ノ四百十三　夜一四ノ四百十四　夜一四ノ四百十五　夜一四ノ四百十六　夜一四ノ四百十七　夜一四ノ四百十八　夜一四ノ四百十九　夜一四ノ四百二十　夜一四ノ四百二十一　夜一四ノ四百二十二　夜一四ノ四百二十三　夜一四ノ四百二十四　夜一四ノ四百二十五　夜一四ノ四百二十六　夜一四ノ四百二十七　夜一四ノ四百二十八　夜一四ノ四百二十九　夜一四ノ四百三十　夜一四ノ四百三十一　夜一四ノ四百三十二　夜一四ノ四百三十三　夜一四ノ四百三十四　夜一四ノ四百三十五　夜一四ノ四百三十六　夜一四ノ四百三十七　夜一四ノ四百三十八　夜一四ノ四百三十九　夜一四ノ四百四十　夜一四ノ四百四十一　夜一四ノ四百四十二　夜一四ノ四百四十三　夜一四ノ四百四十四　夜一四ノ四百四十五　夜一四ノ四百四十六　夜一四ノ四百四十七　夜一四ノ四百四十八　夜一四ノ四百四十九　夜一四ノ四百五十　夜一四ノ四百五十一　夜一四ノ四百五十二　夜一四ノ四百五十三　夜一四ノ四百五十四　夜一四ノ四百五十五　夜一四ノ四百五十六　夜一四ノ四百五十七　夜一四ノ四百五十八　夜一四ノ四百五十九　夜一四ノ四百六十　夜一四ノ四百六十一　夜一四ノ四百六十二　夜一四ノ四百六十三　夜一四ノ四百六十四　夜一四ノ四百六十五　夜一四ノ四百六十六　夜一四ノ四百六十七　夜一四ノ四百六十八　夜一四ノ四百六十九　夜一四ノ四百七十　夜一四ノ四百七十一　夜一四ノ四百七十二　夜一四ノ四百七十三　夜一四ノ四百七十四　夜一四ノ四百七十五　夜一四ノ四百七十六　夜一四ノ四百七十七　夜一四ノ四百七十八　夜一四ノ四百七十九　夜一四ノ四百八十　夜一四ノ四百八十一　夜一四ノ四百八十二　夜一四ノ四百八十三　夜一四ノ四百八十四　夜一四ノ四百八十五　夜一四ノ四百八十六　夜一四ノ四百八十七　夜一四ノ四百八十八　夜一四ノ四百八十九　夜一四ノ四百九十　夜一四ノ四百九十一　夜一四ノ四百九十二　夜一四ノ四百九十三　夜一四ノ四百九十四　夜一四ノ四百九十五　夜一四ノ四百九十六　夜一四ノ四百九十七　夜一四ノ四百九十八　夜一四ノ四百九十九　夜一四ノ五百　夜一四ノ五百一　夜一四ノ五百二　夜一四ノ五百三　夜一四ノ五百四　夜一四ノ五百五　夜一四ノ五百六　夜一四ノ五百七　夜一四ノ五百八　夜一四ノ五百九　夜一四ノ五百十　夜一四ノ五百十一　夜一四ノ五百十二　夜一四ノ五百十三　夜一四ノ五百十四　夜一四ノ五百十五　夜一四ノ五百十六　夜一四ノ五百十七　夜一四ノ五百十八　夜一四ノ五百十九　夜一四ノ五百二十　夜一四ノ五百二十一　夜一四ノ五百二十二　夜一四ノ五百二十三　夜一四ノ五百二十四　夜一四ノ五百二十五　夜一四ノ五百二十六　夜一四ノ五百二十七　夜一四ノ五百二十八　夜一四ノ五百二十九　夜一四ノ五百三十　夜一四ノ五百三十一　夜一四ノ五百三十二　夜一四ノ五百三十三　夜一四ノ五百三十四　夜一四ノ五百三十五　夜一四ノ五百三十六　夜一四ノ五百三十七　夜一四ノ五百三十八　夜一四ノ五百三十九　夜一四ノ五百四十　夜一四ノ五百四十一　夜一四ノ五百四十二　夜一四ノ五百四十三　夜一四ノ五百四十四　夜一四ノ五百四十五　夜一四ノ五百四十六　夜一四ノ五百四十七　夜一四ノ五百四十八　夜一四ノ五百四十九　夜一四ノ五百五十　夜一四ノ五百五十一　夜一四ノ五百五十二　夜一四ノ五百五十三　夜一四ノ五百五十四　夜一四ノ五百五十五　夜一四ノ五百五十六　夜一四ノ五百五十七　夜一四ノ五百五十八　夜一四ノ五百五十九　夜一四ノ五百六十　夜一四ノ五百六十一　夜一四ノ五百六十二　夜一四ノ五百六十三　夜一四ノ五百六十四　夜一四ノ五百六十五　夜一四ノ五百六十六　夜一四ノ五百六十七　夜一四ノ五百六十八　夜一四ノ五百六十九　夜一四ノ五百七十　夜一四ノ五百七十一　夜一四ノ五百七十二　夜一四ノ五百七十三　夜一四ノ五百七十四　夜一四ノ五百七十五　夜一四ノ五百七十六　夜一四ノ五百七十七　夜一四ノ五百七十八　夜一四ノ五百七十九　夜一四ノ五百八十　夜一四ノ五百八十一　夜一四ノ五百八十二　夜一四ノ五百八十三　夜一四ノ五百八十四　夜一四ノ五百八十五　夜一四ノ五百八十六　夜一四ノ五百八十七　夜一四ノ五百八十八　夜一四ノ五百八十九　夜一四ノ五百九十　夜一四ノ五百九十一　夜一四ノ五百九十二　夜一四ノ五百九十三　夜一四ノ五百九十四　夜一四ノ五百九十五　夜一四ノ五百九十六　夜一四ノ五百九十七　夜一四ノ五百九十八　夜一四ノ五百九十九　夜一四ノ六百　夜一四ノ六百一　夜一四ノ六百二　夜一四ノ六百三　夜一四ノ六百四　夜一四ノ六百五　夜一四ノ六百六　夜一四ノ六百七　夜一四ノ六百八　夜一四ノ六百九　夜一四ノ六百十　夜一四ノ六百十一　夜一四ノ六百十二　夜一四ノ六百十三　夜一四ノ六百十四　夜一四ノ六百十五　夜一四ノ六百十六　夜一四ノ六百十七　夜一四ノ六百十八　夜一四ノ六百十九　夜一四ノ六百二十　夜一四ノ六百二十一　夜一四ノ六百二十二　夜一四ノ六百二十三　夜一四ノ六百二十四　夜一四ノ六百二十五　夜一四ノ六百二十六　夜一四ノ六百二十七　夜一四ノ六百二十八　夜一四ノ六百二十九　夜一四ノ六百三十　夜一四ノ六百三十一　夜一四ノ六百三十二　夜一四ノ六百三十三　夜一四ノ六百三十四　夜一四ノ六百三十五　夜一四ノ六百三十六　夜一四ノ六百三十七　夜一四ノ六百三十八　夜一四ノ六百三十九　夜一四ノ六百四十　夜一四ノ六百四十一　夜一四ノ六百四十二　夜一四ノ六百四十三　夜一四ノ六百四十四　夜一四ノ六百四十五　夜一四ノ六百四十六　夜一四ノ六百四十七　夜一四ノ六百四十八　夜一四ノ六百四十九　夜一四ノ六百五十　夜一四ノ六百五十一　夜一四ノ六百五十二　夜一四ノ六百五十三　夜一四ノ六百五十四　夜一四ノ六百五十五　夜一四ノ六百五十六　夜一四ノ六百五十七　夜一四ノ六百五十八　夜一四ノ六百五十九　夜一四ノ六百六十　夜一四ノ六百六十一　夜一四ノ六百六十二　夜一四ノ六百六十三　夜一四ノ六百六十四　夜一四ノ六百六十五　夜一四ノ六百六十六　夜一四ノ六百六十七　夜一四ノ六百六十八　夜一四ノ六百六十九　夜一四ノ六百七十　夜一四ノ六百七十一　夜一四ノ六百七十二　夜一四ノ六百七十三　夜一四ノ六百七十四　夜一四ノ六百七十五　夜一四ノ六百七十六　夜一四ノ六百七十七　夜一四ノ六百七十八　夜一四ノ六百七十九　夜一四ノ六百八十　夜一四ノ六百八十一　夜一四ノ六百八十二　夜一四ノ六百八十三　夜一四ノ六百八十四　夜一四ノ六百八十五　夜一四ノ六百八十六　夜一四ノ六百八十七　夜一四ノ六百八十八　夜一四ノ六百八十九　夜一四ノ六百九十　夜一四ノ六百九十一　夜一四ノ六百九十二　夜一四ノ六百九十三　夜一四ノ六百九十四　夜一四ノ六百九十五　夜一四ノ六百九十六　夜一四ノ六百九十七　夜一四ノ六百九十八　夜一四ノ六百九十九　夜一四ノ七百　夜一四ノ七百一　夜一四ノ七百二　夜一四ノ七百三　夜一四ノ七百四　夜一四ノ七百五　夜一四ノ七百六　夜一四ノ七百七　夜一四ノ七百八　夜一四ノ七百九　夜一四ノ七百十　夜一四ノ七百十一　夜一四ノ七百十二　夜一四ノ七百十三　夜一四ノ七百十四　夜一四ノ七百十五　夜一四ノ七百十六　夜一四ノ七百十七　夜一四ノ七百十八　夜一四ノ七百十九　夜一四ノ七百二十　夜一四ノ七百二十一　夜一四ノ七百二十二　夜一四ノ七百二十三　夜一四ノ七百二十四　夜一四ノ七百二十五　夜一四ノ七百二十六　夜一四ノ七百二十七　夜一四ノ七百二十八　夜一四ノ七百二十九　夜一四ノ七百三十　夜一四ノ七百三十一　夜一四ノ七百三十二　夜一四ノ七百三十三　夜一四ノ七百三十四　夜一四ノ七百三十五　夜一四ノ七百三十六　夜一四ノ七百三十七　夜一四ノ七百三十八　夜一四ノ七百三十九　夜一四ノ七百四十　夜一四ノ七百四十一　夜一四ノ七百四十二　夜一四ノ七百四十三　夜一四ノ七百四十四　夜一四ノ七百四十五　夜一四ノ七百四十六　夜一四ノ七百四十七　夜一四ノ七百四十八　夜一四ノ七百四十九　夜一四ノ七百五十　夜一四ノ七百五十一　夜一四ノ七百五十二　夜一四ノ七百五十三　夜一四ノ七百五十四　夜一四ノ七百五十五　夜一四ノ七百五十六　夜一四ノ七百五十七　夜一四ノ七百五十八　夜一四ノ七百五十九　夜一四ノ七百六十　夜一四ノ七百六十一　夜一四ノ七百六十二　夜一四ノ七百六十三　夜一四ノ七百六十四　夜一四ノ七百六十五　夜一四ノ七百六十六　夜一四ノ七百六十七　夜一四ノ七百六十八　夜一四ノ七百六十九　夜一四ノ七百七十　夜一四ノ七百七十一　夜一四ノ七百七十二　夜一四ノ七百七十三　夜一四ノ七百七十四　夜一四ノ七百七十五　夜一四ノ七百七十六　夜一四ノ七百七十七　夜一四ノ七百七十八　夜一四ノ七百七十九　夜一四ノ七百八十　夜一四ノ七百八十一　夜一四ノ七百八十二　夜一四ノ七百八十三　夜一四ノ七百八十四　夜一四ノ七百八十五　夜一四ノ七百八十六　夜一四ノ七百八十七　夜一四ノ七百八十八　夜一四ノ七百八十九　夜一四ノ七百九十　夜一四ノ七百九十一　夜一四ノ七百九十二　夜一四ノ七百九十三　夜一四ノ七百九十四　夜一四ノ七百九十五　夜一四ノ七百九十六　夜一四ノ七百九十七　夜一四ノ七百九十八　夜一四ノ七百九十九　夜一四ノ八百　夜一四ノ八百一　夜一四ノ八百二　夜一四ノ八百三　夜一四ノ八百四　夜一四ノ八百五　夜一四ノ八百六　夜一四ノ八百七　夜一四ノ八百八　夜一四ノ八百九　夜一四ノ八百十　夜一四ノ八百十一　夜一四ノ八百十二　夜一四ノ八百十三　夜一四ノ八百十四　夜一四ノ八百十五　夜一四ノ八百十六　夜一四ノ八百十七　夜一四ノ八百十八　夜一四ノ八百十九　夜一四ノ八百二十　夜一四ノ八百二十一　夜一四ノ八百二十二　夜一四ノ八百二十三　夜一四ノ八百二十四　夜一四ノ八百二十五　夜一四ノ八百二十六　夜一四ノ八百二十七　夜一四ノ八百二十八　夜一四ノ八百二十九　夜一四ノ八百三十　夜一四ノ八百三十一　夜一四ノ八百三十二　夜一四ノ八百三十三　夜一四ノ八百三十四　夜一四ノ八百三十五　夜一四ノ八百三十六　夜一四ノ八百三十七　夜一四ノ八百三十八　夜一四ノ八百三十九　夜一四ノ八百四十　夜一四ノ八百四十一　夜一四ノ八百四十二　夜一四ノ八百四十三　夜一四ノ八百四十四　夜一四ノ八百四十五　夜一四ノ八百四十六　夜一四ノ八百四十七　夜一四ノ八百四十八　夜一四ノ八百四十九　夜一四ノ八百五十　夜一四ノ八百五十一　夜一四ノ八百五十二　夜一四ノ八百五十三　夜一四ノ八百五十四　夜一四ノ八百五十五　夜一四ノ八百五十六　夜一四ノ八百五十七　夜一四ノ八百五十八　夜一四ノ八百五十九　夜一四ノ八百六十　夜一四ノ八百六十一　夜一四ノ八百六十二　夜一四ノ八百六十三　夜一四ノ八百六十四　夜一四ノ八百六十五　夜一四ノ八百六十六　夜一四ノ八百六十七　夜一四ノ八百六十八　夜一四ノ八百六十九　夜一四ノ八百七十　夜一四ノ八百七十一　夜一四ノ八百七十二　夜一四ノ八百七十三　夜一四ノ八百七十四　夜一四ノ八百七十五　夜一四ノ八百七十六　夜一四ノ八百七十七　夜一四ノ八百七十八　夜一四ノ八百七十九　夜一四ノ八百八十　夜一四ノ八百八十一　夜一四ノ八百八十二　夜一四ノ八百八十三　夜一四ノ八百八十四　夜一四ノ八百八十五　夜一四ノ八百八十六　夜一四ノ八百八十七　夜一四ノ八百八十八　夜一四ノ八百八十九　夜一四ノ八百九十　夜一四ノ八百九十一　夜一四ノ八百九十二　夜一四ノ八百九十三　夜一四ノ八百九十四　夜一四ノ八百九十五　夜一四ノ八百九十六　夜一四ノ八百九十七　夜一四ノ八百九十八　夜一四ノ八百九十九　夜一四ノ九百　夜一四ノ九百一　夜一四ノ九百二　夜一四ノ九百三　夜一四ノ九百四　夜一四ノ九百五　夜一四ノ九百六　夜一四ノ九百七　夜一四ノ九百八　夜一四ノ九百九　夜一四ノ九百十　夜一四ノ九百十一　夜一四ノ九百十二　夜一四ノ九百十三　夜一四ノ九百十四　夜一四ノ九百十五　夜一四ノ九百十六　夜一四ノ九百十七　夜一四ノ九百十八　夜一四ノ九百十九　夜一四ノ九百二十　夜一四ノ九百二十一　夜一四ノ九百二十二　夜一四ノ九百二十三　夜一四ノ九百二十四　夜一四ノ九百二十五　夜一四ノ九百二十六　夜一四ノ九百二十七　夜一四ノ九百二十八　夜一四ノ九百二十九　夜一四ノ九百三十　夜一四ノ九百三十一　夜一四ノ九百三十二　夜一四ノ九百三十三　夜一四ノ九百三十四　夜一四ノ九百三十五　夜一四ノ九百三十六　夜一四ノ九百三十七　夜一四ノ九百三十八　夜一四ノ九百三十九　夜一四ノ九百四十　夜一四ノ九百四十一　夜一四ノ九百四十二　夜一四ノ九百四十三　夜一四ノ九百四十四　夜一四ノ九百四十五　夜一四ノ九百四十六　夜一四ノ九百四十七　夜一四ノ九百四十八　夜一四ノ九百四十九　夜一四ノ九百五十　夜一四ノ九百五十一　夜一四ノ九百五十二　夜一四ノ九百五十三　夜一四ノ九百五十四　夜一四ノ九百五十五　夜一四ノ九百五十六　夜一四ノ九百五十七　夜一四ノ九百五十八　夜一四ノ九百五十九　夜一四ノ九百六十　夜一四ノ九百六十一　夜一四ノ九百六十二　夜一四ノ九百六十三　夜一四ノ九百六十四　夜一四ノ九百六十五　夜一四ノ九百六十六　夜一四ノ九百六十七　夜一四ノ九百六十八　夜一四ノ九百六十九　夜一四ノ九百七十　夜一四ノ九百七十一　夜一四ノ九百七十二　夜一四ノ九百七十三　夜一四ノ九百七十四　夜一四ノ九百七十五　夜一四ノ九百七十六　夜一四ノ九百七十七　夜一四ノ九百七十八　夜一四ノ九百七十九　夜一四ノ九百八十　夜一四ノ九百八十一　夜一四ノ九百八十二　夜一四ノ九百八十三　夜一四ノ九百八十四　夜一四ノ九百八十五　夜一四ノ九百八十六　夜一四ノ九百八十七　夜一四ノ九百八十八　夜一四ノ九百八十九　夜一四ノ九百九十　夜一四ノ九百九十一　夜一四ノ九百九十二　夜一四ノ九百九十三　夜一四ノ九百九十四　夜一四ノ九百九十五　夜一四ノ九百九十六　夜一四ノ九百九十七　夜一四ノ九百九十八　夜一四ノ九百九十九　夜一四ノ千百　夜一四ノ千百一　夜一四ノ千百二　夜一四ノ千百三　夜一四ノ千百四　夜一四ノ千百五　夜一四ノ千百六　夜一四ノ千百七　夜一四ノ千百八　夜一四ノ千百九　夜一四ノ千百十　夜一四ノ千百十一　夜一四ノ千百十二　夜一四ノ千百十三　夜一四ノ千百十四　夜一四ノ千百十五　夜一四ノ千百十六　夜一四ノ千百十七　夜一四ノ千百十八　夜一四ノ千百十九　夜一四ノ千百二十　夜一四ノ千百二十一　夜一四ノ千百二十二　夜一四ノ千百二十三　夜一四ノ千百二十四　夜一四ノ千百二十五　夜一四ノ千百二十六　夜一四ノ千百二十七　夜一四ノ千百二十八　夜一四ノ千百二十九　夜一四ノ千百三十　夜一四ノ千百三十一　夜一四ノ千百三十二　夜一四ノ千百三十三　夜一四ノ千百三十四　夜一四ノ千百三十五　夜一四ノ千百三十六　夜一四ノ千百三十七　夜一四ノ千百三十八　夜一四ノ千百三十九　夜一四ノ千百四十　夜一四ノ千百四十一　夜一四ノ千百四十二　夜一四ノ千百四十三　夜一四ノ千百四十四　夜一四ノ千百四十五　夜一四ノ千百四十六　夜一四ノ千百四十七　夜一四ノ千百四十八　夜一四ノ千百四十九　夜一四ノ千百五十　夜一四ノ千百五十一　夜一四ノ千百五十二　夜一四ノ千百五十三　夜一四ノ千百五十四　夜一四ノ千百五十五　夜一四ノ千百五十六　夜一四ノ千百五十七　夜一四ノ千百五十八　夜一四ノ千百五十九　夜一四ノ千百六十　夜一四ノ千百六十一　夜一四ノ千百六十二　夜一四ノ千百六十三　夜一四ノ千百六十四　夜一四ノ千百六十五　夜一四ノ千百六十六　夜一四ノ千百六十七　夜一四ノ千百六十八　夜一四ノ千百六十九　夜一四ノ千百七十　夜一四ノ千百七十一　夜一四ノ千百七十二　夜一四ノ千百七十三　夜一四ノ千百七十四　夜一四ノ千百七十五　夜一四ノ千百七十六　夜一四ノ千百七十七　夜一四ノ千百七十八　夜一四ノ千百七十九　夜一四ノ千百八十　夜一四ノ千百八十一　夜一四ノ千百八十二　夜一四ノ千百八十三　夜一四ノ千百八十四　夜一四ノ千百八十五　夜一四ノ千百八十六　夜一四ノ千百八十七　夜一四ノ千百八十八　夜一四ノ千百八十九　夜一四ノ千百九十　夜一四ノ千百九十一　夜一四ノ千百九十二　夜一四ノ千百九十三　夜一四ノ千百九十四　夜一四ノ千百九十五　夜一四ノ千百九十六　夜一四ノ千百九十七　夜一四ノ千百九十八　夜一四ノ千百九十九　夜一四ノ千二百　夜一四ノ千二百一　夜一四ノ千二百二　夜一四ノ千二百三　夜一四ノ千二百四　夜一四ノ千二百五　夜一四ノ千二百六　夜一四ノ千二百七　夜一四ノ千二百八　夜一四ノ千二百九　夜一四ノ千二百十　夜一四ノ千二百十一　夜一四ノ千二百十二　夜一四ノ千二百十三　夜一四ノ千二百十四　夜一四ノ千二百十五　夜一四ノ千二百十六　夜一四ノ千二百十七　夜一四ノ千二百十八　夜一四ノ千二百十九　夜一四ノ千二百二十　夜一四ノ千二百二十一　夜一四ノ千二百二十二　夜一四ノ千二百二十三　夜一四ノ千二百二十四　夜一四ノ千二百二十五　夜一四ノ千二百二十六　夜一四ノ千二百二十七　夜一四ノ千二百二十八　夜一四ノ千二百二十九　夜一四ノ千二百三十　夜一四ノ千二百三十一　夜一四ノ千二百三十二　夜一四ノ千二百三十三　夜一四ノ千二百三十四　夜一四ノ千二百三十五　夜一四ノ千二百三十六　夜一四ノ千二百三十七　夜一四ノ千二百三十八　夜一四ノ千二百三十九　夜一四ノ千二百四十　夜一四ノ千二百四十一　夜一四ノ千二百四十二　夜一四ノ千二百四十三　夜一四ノ千二百四十四　夜一四ノ千二百四十五　夜一四ノ千二百四十六　夜一四ノ千二百四十七　夜一四ノ千二百四十八　夜一四ノ千二百四十九　夜一四ノ千二百五十　夜一四ノ千二百五十一　夜一四ノ千二百五十二　夜一四ノ千二百五十三　夜一四ノ千二百五十四　夜一四ノ千二百五十五　夜一四ノ千二百五十六　夜一四ノ千二百五十七　夜一四ノ千二百五十八　夜一四ノ千二百五十九　夜一四ノ千二百六十　夜一四ノ千二百六十一　夜一四ノ千二百六十二　夜一四ノ千二百六十三　夜一四ノ千二百六十四　夜一四ノ千二百六十五　夜一四ノ千二百六十六　夜一四ノ千二百六十七　夜一四ノ千二百六十八　夜一四ノ千二百六十九　夜一四ノ千二百七十　夜一四ノ千二百七十一　夜一四ノ千二百七十二　夜一四ノ千二百七十三　夜一四ノ千二百七十四　夜一四ノ千二百七十五　夜一四ノ千二百七十六　夜一四ノ千二百七十七　夜一四ノ千二百七十八　夜一四ノ千二百七十九　夜一四ノ千二百八十　夜一四ノ千二百八十一　夜一四ノ千二百八十二　夜一四ノ千二百八十三　夜一四ノ千二百八十四　夜一四ノ千二百八十五　夜一四ノ千二百八十六　夜一四ノ千二百八十七　夜一四ノ千二百八十八　夜一四ノ千二百八十九　夜一四ノ千二百九十　夜一四ノ千二百九十一　夜一四ノ千二百九十二　夜一四ノ千二百九十三　夜一四ノ千二百九十四　夜一四ノ千二百九十五　夜一四ノ千二百九十六　夜一四ノ千二百九十七　夜一四ノ千二百九十八　夜一四ノ千二百九十九　夜一四ノ千三百　夜一四ノ千三百一　夜一四ノ千三百二　夜一四ノ千三百三　夜一四ノ千三百四　夜一四ノ千三百五　夜一四ノ千三百六　夜一四ノ千三百七　夜一四ノ千三百八　夜一四ノ千三百九　夜一四ノ千三百十　夜一四ノ千三百十一　夜一四ノ千三百十二　夜一四ノ千三百十三　夜一四ノ千三百十四　夜一四ノ千三百十五　夜一四ノ千三百十六　夜一四ノ千三百十七　夜一四ノ千三百十八　夜一四ノ千三百十九　夜一四ノ千三百二十　夜一四ノ千三百二十一　夜一四ノ千三百二十二　夜一四ノ千三百二十三　夜一四ノ千三百二十四　夜一四ノ千三百二十五　夜一四ノ千三百二十六　夜一四ノ千三百二十七　夜一四ノ千三百二十八　夜一四ノ千三百二十九　夜一四ノ千三百三十　夜一四ノ千三百三十一　夜一四ノ千三百三十二　夜一四ノ千三百三十三　夜一四ノ千三百三十四　夜一四ノ千三百三十五　夜一四ノ千三百三十六　夜一四ノ千三百三十七　夜一四ノ千三百三十八　夜一四ノ千三百三十九　夜一四ノ千三百四十　夜一四ノ千三百四十一　夜一四ノ千三百四十二　夜一四ノ千三百四十三　夜一四ノ千三百四十四　夜一四ノ千三百四十五　夜一四ノ千三百四十六　夜一四ノ千三百四十七　夜一四ノ千三百四十八　夜一四ノ千三百四十九　夜一四ノ千三百五十　夜一四ノ千三百五十一　夜一四ノ千三百五十二　夜一四ノ千三百五十三　夜一四ノ千三百五十四　夜一四ノ千三百五十五　夜一四ノ千三百五十六　夜一四ノ千三百五十七　夜一四ノ千三百五十八　夜一四ノ千三百五十九　夜一四ノ千三百六十　夜一四ノ千三百六十一　夜一四ノ千三百六十二　夜一四ノ千三百六十三　夜一四ノ千三百六十四　夜一四ノ千三百六十五　夜一四ノ千三百六十六　夜一四ノ千三百六十七　夜一四ノ千三百六十八　夜一四ノ千三百六十九　夜一四ノ千三百七十　夜一四ノ千三百七十一　夜一四ノ千三百七十二　夜一四ノ千三百七十三　夜一四ノ千三百七十四　夜一四ノ千三百七十五　夜一四

月前旅宿
家で當月
庭上月
荒屋月
故宅月
旅行月

代　夢うつゝねやの上にかよふ秋風の
男　通ふまくらのさやの中山
代　秋毎の月とのこゝろ
金　いづくかとしの月を見て
千　くまもなきみをかけ社の月ともや
代　秋風ぞ吹
千　山風のまき
代　月を見て
千　旅衣
代　秋風ぞ吹
千　旅衣
代　秋風ぞ吹
千　旅衣
代　秋風ぞ吹

名所月　古秋のそれの月の光しわうえ方
新様のその月の光するいまのやうをえさせ
勅なるべく鑒のごとくなるべし秋の月　光信
詞　ごとくとくとくに家分配
嫁捨山月　千いにふく月ひとつをいうんべきる続文科の山
続　おくりの月いとうおごと捨のいうことおそれやうも　永純
旅宿待月　代はおうるまでの月代出るまでいるなりのとうん　頼家
旅泊待月　ねごまのを波る月いくるべき　兄忠
旅中見月　古　雲のそうちくれいうとそる三笠の山出月　仲麿
今　家に懸るおと文科やおごと捨山出月ばえて　読人しらず
続　代　おのうんおとうとうべきおもの見渡る月　弘輔
代　秋の海夕凪をどる波まうちうと出る月　保季

旅宿見月　野代　ふく今と秋の浦風吉せぬおとれうくと染る秋なの月　為仲
旅中十五夜　勅　まどろまずとおうとべいつうん思ふの浦風吉せぬおとれうくと染る秋なの月　孝標女
月前旅情　後撰　見えまれまの月おどろおとれうくと染る秋なべのさを中山　家隆
旅宿暁月　野代　ふくれ何とをうべとうんど秋おえ月六入月　関り
月前旅泊　代　秋の空の松風吉さえて拾のえ月うごと殺　惟明親王
今　家秋月うごとねとおもえうごと独わるも　秀能
野　空しの浦の苔ん家のとおおえ月ふ　基俊
月前旅情　ねてうおといせの浜荻わおて蛙吉うる秋　家教
旅宿の月　浪　旅衣夜秋吉染ふく月うんど海おおえ　雲客
月前旅泊　金　家そいのうえの西新さえうごと月おで撃さ秋十申山　権少納言
野　右のうえの西新さえうごと月おで撃さ秋十申山　権少納言
同　ふれうと安て出一面新いうん拾をおうの月　権政

月旅中友　金
見月思旅宿　野秋こそるそのやどのさびしさを
月夜田舎　野都をも思ふ窓のもるる月
旅者見月　代しら波の思ふにぬれぬ袖ぞなし
月私心友　千おなじとやながめつらむと偲れば
月おもひ出　千はるまでも涙ぞ添ふ峰の雲
月夜興　野ひとりぬる夜半の衾の枕
月ふけて雲　詞しばふとともに入を待つまと
秋情在月　代秋のそれ月かなの塚ぞともなき
見月忘家　代月とそものまかわくぐれいにしへ
味月勝酒　今人は皆ふ我をもつやうこあのそむ秋のそ月

立秋
五首
素立
孝標め
完蓮
親隆
内大臣
政
國通
性法聖
美材
教長
三河内侍
孝標め

月雨後
野浦霧鳴月
月前鶏
月似雪
月映鏡
月慰心

秋部後
今つの浦ふ月のおぼつかなきを
勅わすれ浦ふべつの嶋の秋ぞ
後秋のそれひとりふるそねの月
後夜ふかくわれひとり
代雲とてもそうまじ
金くまもるく鏡とそ
千山端ふまもの鏡みつ
代をうつる雁をそ
千さしぬ月る秋の風
代ふもむ秋の月ぞ
今ぐふそ津の森の秋
同業氏高岡ふ後ふもとをおぐろく
千ちよふをつてる月の
秋下十三

後
五首
基俊
清輔
教長
大輔
秀能
後法聖

月前友　代　遠れば更むことなき月をなほそのそばに小
月角秋友　今　月新しき昔の友ぶかく偲ぶらむかも
月無秋友　秋　ふるさとの月もうかりし夜ごとにも
月生涯友　月　今宵ぞ袖にやどしかねつる
月照衣　代　遠近の秋の月かげ数ふれば我が身ひとつも
袖上月　今　ながめ来ぬ秋はわが世の友ならし

萬首部之六

月前旅人　代　大宰府にて秋の夜の月を見て
　今　ふるさとの人恋ふる夜の月影に我が衣手は露ぞおきける
月前恋友　今　久堅の天照月をながめつつ遠き人をぞ思ひ恋ひける
　代　雲ゐまで送りし人の帰るさを月影ながら見送りつるかな
月前惜別　秋　秋の夜の月の光し清ければ別れも遠くなりぬべらなり
　今　ながめつつ思ふ人にも見せてしがこの秋の月を君とともに
月夜待友　代　今来むと言ひしばかりに長月の有明の月を待ちいでつるかな
　今　君待つと閨のひとりぬる宵に更けゆくまでの月を見しかな
月前待人　秋　秋の夜の月の光し清ければ人待つとしもなく更けにけるかな
　今　君まつと月をながむる袖の上に置くとはなしに露ぞ置きける
客体月来　代　ふるさとの月ぞ昔にかはらじと思ひ出でつつ行くぞ悲しき
　今　ふるさとの月ぞ昔にかはらじと思ひ出でつつ行くぞ悲しき
　秋　秋の月ひとりながめてふるさとの人をぞ思ふ旅の空かな

月前旅人　大宰府にて秋の夜の月を見ても　雨り△
月前恋友　今　久堅の天照月をながめつつ遠き人をぞ思ひ恋ひける　雨り△
月前惜別　雲ゐまで送りし人の帰るさを月影ながら見送りつるかな　雨り△
月夜待友　今　君待つと閨のひとりぬる宵に更けゆくまでの月を見しかな　雨り△
月前待人　秋　秋の夜の月の光し清ければ人待つとしもなく更けにけるかな　雨り△
客体月来　代　ふるさとの月ぞ昔にかはらじと思ひ出でつつ行くぞ悲しき　雨り△
　今　ふるさとの月ぞ昔にかはらじと思ひ出でつつ行くぞ悲しき　雨り△
　秋　秋の月ひとりながめてふるさとの人をぞ思ふ旅の空かな　雨り△

有夜望友　詞
依月寄友　代を和るみるを幷の月ふまそれて泊といそぬ不記事る
月多談洩る多　野わせもくでくさい月の事
惜月　ぬでものをつる月をとでんかれるごかぬ人をも
〃　天永をる記をりなねごの
〃　浪もきて巻ひきをひくみくて也ごみ
翫惜月　金墨る記新をとくめがも端かへ隆雄
〃　ふりてもごみくさん天八まごる月やもごもごも俗人和
惜月　千天永をる宝笑い生家そまくく月のあくりから
同　深をのくる私ごかを拘を語れなてそそ色の月　也尚兒
暮月惜秋　代月友小永まそごふ秋のあ
砂月　千夕雲の月俗ごかいるとから文補
千わごで入んを称をいとごをとへくごくまかもる
月新　也方

海邊殘月　物沿われべのうんとする後の
答秋月　代すごんが家世いくく文かうあへくごくと端の月　家隆
野秋文記波話の多のをかるごく月をくるうる凡　赤染
千雪のひまれかりわ　兼国
暮煙殘月　今等ん未も秋の来べくえ　讀人不識
》学そり秋のことを涼れお名ふごる　乃性法堅
物凡多ん月い光で場りる　武子内堅
波出月のる的の月いをるごうくるのまれ秋の多ま　實快
野秋くるさを史まん月んる　有果
続煉るくるの山れごび　通法
きぬ又月　物もれべごとごりとごひ　臣房
続ものかふんが神ド称ごをごる覚　安清
動れくるひ月のをき　つ条入
見月傷客　動れくるひ月のをき　具室母

寄秋月恨

物ごとに秋をうれてや月のかげ
野ごとにやどるあはれも秋いろに
千ぢのそよぐ風ぞ身にしむ
野べの露月の光もおのがじし
袖にぞ宿る秋の夜の月

後月

月ぞ見し
秋のもなかの夜はの空
雲はれて
千里をてらす秋風に
ひとりながめし
袖の露かな

月前遠情

月ぞ見る

月催涙

千
添つゝ袖や秋のひまうるべき
今
とゝろもえ文りをホ月のことやすく涙落
彩
ふとつりの秋ホもわ(ね)涙そ月の種ひろる光な
同
そる人の袖ホでゝる秋のたホ月ホいねぬ夢そう
〃
分ホそる新とゝそえれ秋の月袖ホ秋ねわれゝば
代
添れで袂の衣れねる涙のゆをうる光
今
うれとゝ顧ゝねぎ尼月ホすぐ涙まうゝの分ホそひ
ねり重ねいる世とそゝうゝね秋の月ホれべきむ
伊丑
但馬
実綱
宮城野
右衛門
惜春

秋ゝ惜春

彩
ゝゝもゝぶー秋よめぐうる重ねぶ秋ゝて日ど散ホホ秋る月
動
恐ぐゝもゝね昔代秋ゝて日ど散ホホ秋る月
代
行のとれくゝもゝね昔の長しきゝゝるのそホめる月
〃
右一の重新をゝゝゝ池る月多
〃
ゝ世よりゝね昔まぐ夏れべまうゝねぬ月でいゝな
増ある

右衛門
秋下十八

右衛門
寄月祝

今
歳ぬうゝもゝーとゝひいゝ一分のいそぐホ月をうる笹
金
右ゝそ月の光ゝ場うるゝの景れくそめべやうう
代
詠ホホ秋ゝ日ど散ホホ秋る月
彩
ゝゝもゝぶー秋よめぐうる重ねぶ秋ゝて日ど散ホホ秋る月
寄月祝

寄月祝

右衛門
寄月祝

今
歳ぬうゝもゝーとゝひいゝ一分のいそぐホ月をうる笹
金
右ゝそ月の光ゝ場うるゝの景れくそめべやうう
代
詠ホホ秋ゝ日ど散ホホ秋る月
彩
ゝゝもゝぶー秋よめぐうる重ねぶ秋ゝて日ど散ホホ秋る月
寄月祝

寄月祝

右衛門
寄月祝

今
歳ぬうゝもゝーとゝひいゝ一分のいそぐホ月をうる笹
金
右ゝそ月の光ゝ場うるゝの景れくそめべやうう
代
詠ホホ秋ゝ日ど散ホホ秋る月
彩
ゝゝもゝぶー秋よめぐうる重ねぶ秋ゝて日ど散ホホ秋る月
寄月祝

寄月祝

右衛門
寄月祝

今
歳ぬうゝもゝーとゝひいゝ一分のいそぐホ月をうる笹
金
右ゝそ月の光ゝ場うるゝの景れくそめべやうう
代
詠ホホ秋ゝ日ど散ホホ秋る月
彩
ゝゝもゝぶー秋よめぐうる重ねぶ秋ゝて日ど散ホホ秋る月
寄月祝

寄月祝

右衛門
寄月祝

今
歳ぬうゝもゝーとゝひいゝ一分のいそぐホ月をうる笹
金
右ゝそ月の光ゝ場うるゝの景れくそめべやうう
代
詠ホホ秋ゝ日ど散ホホ秋る月
彩
ゝゝもゝぶー秋よめぐうる重ねぶ秋ゝて日ど散ホホ秋る月

有智述懐　　橘
雨ふりて西ふく月のもとづゆに　高光
後拾遺　　ふく斗まで月を同じくや　文時
金　　詠れどおなじそらとはうらめども　実助
　　旧たく袖のつゆぞ秋なる　　女性
野　　降数月こう秋ふかき　　雑毎
有　　夜わきて　　源政
今　　昔今一声とぎすぐる秋の月　　経通
物　　深世ふかく秋の事なの分ぬ　　景之母
後　　をのこ九月の光いろ〳〵　　重之女
　　詠りてそふかき方をたづぬ　　仁智
有　　こぞ見しふるき月のいろ　　元性
後　　秋のとも月ふかきをこそ　　讀人不知

橘
今　　をぬの月九夜を待秋ふかき　　仲文
金　　み庵ふかき月ぶふうぐるをまつむしのこゑ　　源時
同　　未明るまでなをのの月のなかぞら　　同
朝　　跡波江のあしまふかき月をだに　　和泉
千　　いるれがらづ秋ぞふ筆沙〳〵てそのをなの月　　元輔
今　　秋ぞ〳〵て見ぬまでとふひとのみや　　中成
哲　　世ぬいとゞ九月をもつ〳〵　　成
〃　　人ぞねぬ内のつゆ秋の月をそ　　修理
新　　わする人のこ秋の月をだに　　実経
有　　何をうにふかき秋のそ月　　実政
後　　うにふかき秋のそ月　　景国
　　遠きとゞ〳〵ぐのでき家　　讀人不識
今　　秋ぞふれてをれるねぐら　　仝
有　　蛬風ふきそふれてをれるこゑ　　在

待雁

因家待雁来

初雁

早雁

初紀路某九秋なうで野くま夜の雲や亜和うえ
い友ことらひきこえ亜ごとハ何に里へ八坤ごを
指萩のえ久亀くおそらぐ和ぬ(ネイ)ごノ秋のまるる(らん)
代木枯の秋の初風いぬるをなごろをねかこの秀をね
代果り庵も日比へ亜ふそう秋風か初田ろノご和ぬ(まるる)(ろん)
い御やくもきこうぬノろ石家の亜ル秋いえまね(ま)せ
代煤風ハいをふそう今をろいるこノごの亜こそまそ
古まつくふわるねねろう初この宝さ暗秀の珍きる
指さいでこそ秋いうれごそこつ屋のか度どかめづくは
後珍ノごろが亜を給鏡も事ふたくまる(ら)
野いをまそこ亜弁をつるこん金の翅ふるもとえ九秋風
初暗こりそいう初この初の宴をる人でた
古いとやハ暗初るころ石家の宴ふる末ごハ紀集わ後
いいやはやを峰初る屋ろ右衣わくこわきせん妹ハ
わく後

雅經
恵慶△
不識読人
営空
後人まも
西住尊
元方
読人不知
長能
俊秀
业信
読人まも
仝

後初ろて月日のりよ亜ろ秋ハ岩九
男亜ごる荻の集さやぎ秋風のいるる
古秋風ふ秀を恨ふわごそろる舟ハ大のとてる一屋を終
今妹風り初一重で吟のまる設をまふうそこ後
代分ふるく秋風ハねむごし社衣ろごみ宝ふ暗九
同初一の初のをる秀ろる亜ごハ宝分せ亜て気とごの
野撲亜の風ふ初るこ心ふ山とびこる初屋ハ亜
後秋風りさそれるる一ごそ井遥ふろ一で吟る
いろここごそこごき初を初一のハる一ハをやしろを
後年ごとふ亜ろごねこごろ秋ハごろや秋知ん
秋どふこれどろこをびれまれを初ふ小そてほろうとのき
いりの亜ろ秋ごろこをを結ろれやくる秋ごふらしとれん
後指さこ海く初のそまそ暗二ハおのご羽風ル秋宝る
代古ふふい亜つくるこの旅ル衣いえるごそろう

雁

秋下二十

雁来

厂ち秋
風前ノ未〃
風家の初一
吟初一
暁初一
恵初一
来秋一来
雁

雲雁
雲雨雁
風雪雁
雨雁
雪雁

霧雨雁
関雁
夜雁
秋雁
関雁

月前雁
関路雁
朝雁
帰雁
雁

旅雁
諸岩雁

代古今集春部下
秋風ふきうらの中空かよふ雁
秋風ふき雲ゐに雁ぞ鳴わたる
秋風ふき雲ゐに雁ぞ鳴わたる
秋風ふき雲ゐに雁ぞ鳴わたる

旅のやどり　代　旅ごろもうすくも秋の来根哉　八方舎撰政
海ちかく見　後拾遺　うちつれてもろこし舟や秋の風　浪化
田家ノ　秋　和田の原八重九十九湾の秋　翁
閨ノ窓哀　万　大そのの入江なるらいわびとの　同
寄鴈述懐　野　一ノ金いかりもおろしそれぞ秋　翁
霧　の月もまだてらぬ人ぞ多かりける　雅
初雪　拾遺　ゆふ一ぢ降るもまばらに成ぬれば　雅
朝雪　後撰　昨夜ふりつもりぬらしあさぼらけ　雅
　　松風雪の上なるけはひぞしるき　雅
　　拾遺　おもふどちまかりかよはむ冬の夜の　公
　　たのもしきかな　雅
　　おもふどち春の山辺にうちむれて　雅
　　いはばや君が千代の数々　雅
　　わすれなむとよのをぢのをしへごと　雅
　　いはばや君が千代の数々　雅

河朝霧　代　朝日出てそらうつる川霧の　浪化
海辺朝霧　後拾遺　ほのぼのとあけゆく浦の朝霧に　行意
吉山朝霧　野　さびさびとみよしの山の朝霧に　翁
暁霧　万　月ありあけの雲もまがへつつ　雅
夕霧　拾遺　うづまさの杣の下道ゆくほどに　雅
　　夕霧立ぬ宿はかすめて　雅
　　難波がた汐満ちくらし夕霧に　雅
　　おきつ舟よるべさだめず漕ぎ出でて　雅
　　行くへも知ぬ夕霧の空　雅
　　秋風の吹にし日よりおきつ舟　雅
　　よるべさだめぬ波の上かな　雅
　　夕霧の立まがふまで吹ぬれば　雅
　　ゆくへも知ぬ波の上かな　雅
暁四霧　後拾遺　あけぬとて帰る道こそ霧ふかき　雅
橋邊雪　野　雪ふかき交野の御野ゆく鷹の　翁
　　跡ふみつけて君にとはばや　雅
　　拾遺　ふるさとの花の白雪ふみわけて　雅
　　いざ見てむ吉野の山は今日こそは　雅
　　後拾遺　秋の夜の月の光しあかければ　雅
　　人待山も越ぬべらなり　雅
川霧　万　大和路の吉野の川の滝の上の　雅
秋雪降而　拾遺　吉野川岩波高く行水の　雅
　　後拾遺　秋の夜の月の光しあかければ　雅
　　人待山も越ぬべらなり　雅
　　今宵の月の川波さえて　雅
　　代　絵に引歌の小野の雪　浪系校

暁雲漏松　代雲添よ浪の渡るのぬるこふとそる人知でみよ　〃秋一
霧籠筏　　千いろいろて紅葉々を見ぬ夕雲小舟の往来　　荻原
雲中を帆　代渓流多雑吉野やちるの花の名残ぞ　　覚性法堅
添る雲　　初瀬ぢふそれとも見えぬ夕雲小舟やとりえの磐のりも大　　寄雲
島霧　　つづ加小妹歌くちずさむ　　代雲の朗雲也てるも
浦雲　　浦なくも秋雲へりもてゆく　　代雲の峰なく軒急ぐ
渡霧　　代雲添ふこそ出し物を秋の野の雲小舟の　　有元
野雲　　代千ちもの河雲の雲小舟の　　代雲の朗雲也てるも
霧籠山　　浦なくも秋雲へりもてゆく　　代雲の峰なく軒急ぐ
松雲　　代雲添ふこそ出し物を秋の野の雲小舟の　　有元
山城雲　　秋雲へまのまよこえぬとも　　荻原

霧籠山城
り城雲
霧妨り城
閑雲
霧中雲
名所霧
山家雲
霧籠
暮秋雲
擣衣

雲つま松雲の松へまぶりく雲こそのちぐもしぐれ　　乾峯
千夕雲や秋の雲小舟り雲の垂そこ　　京園
吉小野霧こめくれば秋雲のたちまちぐふ立渡り　　読人しらず
野霧ふうづもれ雲小舟の夕雲　　義門
霧ふうづもれ雲小舟の夕雲　　読人しらず
代雲小舟の雲小舟の夕雲　　義門
代雲小舟の

関擣衣

遠擣衣

夕擣衣

暁擣衣

深更擣衣

終夜擣衣

連夜擣衣

不寝擣衣

暁天擣衣

擣衣急

風前擣衣

月下擣衣

秋風の分かぬ夜ごろ幾月も隔てるまでと小夜衣打つ　　後人麿
代　遠山のわさ田の面の秋風に雁の鳴くなり小夜衣打つ　　通枝
代　夜寒とて姉妹うつむく砧の音のまぎれまで聞く　　小野
代　長月の夢の衣と打ち絶えぬ人の心を　　後京極
〃　秋風の分かぬ夜ごろ幾月も隔てるまでと小夜衣打つ　　前
代　遠山のわさ田の面の秋風に雁の鳴くなり小夜衣打つ　　後京極
夕擣衣　夜寒とてそぐめる姉妹の秋風かうつむく砧の音　　摂政
暁擣衣　月小鳴くの羽色のさむる夜に夢をおどろく砧　　前
深更擣衣　代　しとうち払ふさびしさ秋風小牡鹿の妻恋ふる夜ごろ　　後京極
終夜擣衣　代　後拾遺　打ちまがへ更ぬる夜半の砧にも恋ひこがるる　　後京極

連夜擣衣　前小将成通
代　後拾遺　小倉山麓の小田を刈る秋は過ぎにし衣打つなり　　家良
不寝擣衣　代　後拾遺　小倉山麓の小田を刈る秋は過ぎにし衣打つなり　　雅経
暁天擣衣　代　後拾遺　小倉山麓の小田を刈る秋は過ぎにし衣打つなり　　後京極
擣衣急　代　後拾遺　小倉山麓の小田を刈る秋は過ぎにし衣打つなり　　定家
風前擣衣　代　後拾遺　小倉山麓の小田を刈る秋は過ぎにし衣打つなり　　後京極
月下擣衣　代　後拾遺　小倉山麓の小田を刈る秋は過ぎにし衣打つなり　　定家

擣衣急　前小将成通
代　後拾遺　小倉山麓の小田を刈る秋は過ぎにし衣打つなり　　家良
代　後拾遺　小倉山麓の小田を刈る秋は過ぎにし衣打つなり　　雅経
代　後拾遺　小倉山麓の小田を刈る秋は過ぎにし衣打つなり　　後京極
代　後拾遺　小倉山麓の小田を刈る秋は過ぎにし衣打つなり　　定家
代　後拾遺　小倉山麓の小田を刈る秋は過ぎにし衣打つなり　　後京極
代　後拾遺　小倉山麓の小田を刈る秋は過ぎにし衣打つなり　　定家

擣衣遠　　續衣砧遠の里人急ぐころの秀きこゑ
寝覚擣衣　　風ふけをふかく聞てさびし衣打
續秋のとしも旅寝てきくが侘しき
野まどろまで詠めとそのをみな子
不眠聞擣衣　　代　　ねぐらの鳥も人の衣打
擣衣驚眠　　秋の夜もふけゆく頃の砧
擣衣夜深　　野　　子夜衣打秋の寒小夜
同　　衣打寒いまもふかすぐるもの哀を物つ
茨屋擣衣　　代　　庵ながら岩ふく風に衣打
閨中擣衣　　代　　音ふけまさる閨小夜衣打や
海橋聴砧　　〃　　わたるこのかた吹しく近風のまもなく打衣
里擣衣　　野　　辺ゆくらむの人も月ふけてとぐらの里小夜衣打
代　　をや
水風清月　　今　　秋風の羽風も月ふけてとぐらの里小夜衣打
聞砧　　移りゆく世月のうつれる里小夜衣打

湖邊擣衣　　波ふかき浦のかた吹風や
海辺擣衣　　代　　秋とやふかきその塩焼いまもなれぬ波のとまや
家擣衣　　同　　松風の音もの寒の夕ぐれ小塩風をや衣打
故郷擣衣　　今　　ねぐらの夕ぐれ小塩風をや衣打
山中擣衣　　濃茶色の月吹風かふかき秋ぐれそ古江の人の衣打や
名所擣衣　　代　　松風の音ぶかき秋ぐれそ古江の人の衣打や
旅宿擣衣　　代　　人々の袖の墨染うちそへて衣うつ月の笑小打ち
待人擣衣　　野　　音ふけ増て吹風をつらぬきてたれ待とてや
代　　うつ人のとまねや衣をかまち侘そまちつる墨小衣うつ

良房　入江ゆく舟も政
信国一　忠清と　弁内侍
秀吉　　静子内侍
後鳥羽院　　中宮女蔵人
雅実　　後鳥羽院
藤俊　　雪之
信堂　　栄之
隆房
為家

雪秋鶫 代 六九月比秋をかけて来ますが秋の文字を入れと夜うつるう
鴫 按 もつぱら云いるのうち鴫のそびえるものを言おり鴫きいる
六 鴫の鴫のそびえるものをわれわれてで鳴うるさわれわれてで鳴うるさわれわれてで鳴うるさ

金子幸まで家が植べよ菊ども
すさえつる先以前かまでも月小稲と白菊の花
野菊ほおれていろいろ初霜のおくるる秋萩垣根
白菊の淡まどせる菊花いづれもの笑ひかほ
金
菊の花枝をる者のあやまちてとぬ
代
花ぐひるる花笑ひかほ
古
咲初め一枝ぐらん花枝ちるめ枝さへ枯ぬ
代
初一枝が秋ふれ時々咲ぶらん
後
古に似ぬれてさうる菊花猶ぶらまそ句ごろ
代
新まもの例ふるる業花笑り来をく君のことぞそ
白
ふくみて色幷小秋をちうつるとでわとうらん
代
菊名の一ト業をちうつるもでいとねのあやもきそ
新
菊花の色ほる秋月の菊花いづれの秋ら枝てぶらん
代
咲人いわそ似ぬ菊花をのとまでもふ
```
乾季
家隆
菊補
金
海松々
紫草
伊勢大輔
かねすけ
歌員乳母
ツラ
内花
```

金
菊花久
白菜
紫菊
菜ぶらぶく
折菊
撫頭菊
菊露

```
至武天皇
紫ら
通俊
高遠
義忠
文雄
いまな
不識読人
要や
句
なるく
友則
孝善
秋雀
```

菊帯水

菊重陽

菊花

菊籬

菊雨

菊露

菊酒

菊枕

菊衣

菊冠

菊髪

菊湯

菊宴

菊合

菊人形

菊見

菊供養

菊の白菊

菊の黄菊

菊の紫菊

菊の異名

菊の九年小菊

菊の大輪

菊の花の色

菊の花の形

菊の花の香

菊の花の露

菊の花の酒

菊の花の枕

菊の花の衣

菊の花の冠

菊の花の髪

菊の花の湯

菊の花の宴

菊の花の供養

菊の花の人形

菊の花の見物

菊の花の供養の式

菊の花の供養の法

菊の花の供養の日

菊の花の供養の場

菊の花の供養の人

菊の花の供養の物

菊の花の供養の事

菊の花の供養の心

菊の花の供養の功徳

菊の花の供養の利益

菊の花の供養の作法

菊の花の供養の次第

菊の花の供養の儀式

菊の花の供養の道具

菊の花の供養の場所

菊の花の供養の人数

菊の花の供養の物数

菊の花の供養の事柄

菊の花の供養の心得

庵の菊　後拾遺　よしの宰相
山家菊　後拾遺　大江匡房朝臣
名所菊　後拾遺　伊勢大輔
菜映菊　後拾遺　源俊頼朝臣
時節菊　後拾遺　源俊頼朝臣
河邊菊　後拾遺　源俊頼朝臣
菜露菊　後拾遺　源俊頼朝臣
水邊菊　後拾遺　源俊頼朝臣
菊久秋　後拾遺　源俊頼朝臣

菊数多秋　後拾遺　源俊頼朝臣
菜繁き妹　後拾遺　源俊頼朝臣
菊と妻　後拾遺　源俊頼朝臣
菊帯る露　後拾遺　源俊頼朝臣

君ぞ代を　後拾遺　源俊頼朝臣
今を菊の白く咲ける折にこそ
代を経てる菊と白菊とを菜に
折て　後拾遺　源俊頼朝臣
九月小白き移ろひ
古いわでかをこそ移ろひ　後拾遺　源俊頼朝臣
菜よ移ろひ　後拾遺　源俊頼朝臣
綻ぶくる移ろふ菊の花　後拾遺　源俊頼朝臣
指　後拾遺　源俊頼朝臣
長月のこぬっごとかも　後拾遺　源俊頼朝臣
い折菊の菜をつつて　後拾遺　源俊頼朝臣
後拾遺　源俊頼朝臣
古　後拾遺　源俊頼朝臣
指　後拾遺　源俊頼朝臣
続　後拾遺　源俊頼朝臣
古人つべてそ　後拾遺　源俊頼朝臣
菜くる秋の菊をべ　後拾遺　源俊頼朝臣

老人對菊　後拾遺　源俊頼朝臣
寄白菊祝　後拾遺　源俊頼朝臣
移ス菊　後拾遺　源俊頼朝臣

殘菜白　後拾遺　源俊頼朝臣

對菊待人　古代の歌人はこの秋ごとに菊を賞でまた
　　いかにしてくさぐさの菊の花を作り出すかに苦心したかを
　　今ここに菊の枝ぶりや花の色合いなどを
閑九月菊　九月菊の枝ぶりや花の色合いなどを
寄菊述懐　菊に寄せて心中の感懐を述べる歌
楓紅葉　金銭のある楓の古枝の落ちぐれ葉の拾とる
　　野鶏すくう秋かぜ楓紅葉ちらす秋風ぞうく
楓紅葉　初もみぢ
　　古今集の作者の歌
楓紅葉　秋とのみいふこの花の指す所
　　古今集の作者の歌
萬　　古今集の作者の歌

閑中喜　古今集の作者の歌
紅葉　古今集の作者の歌
　　古今集の作者の歌
　　古今集の作者の歌
　

山紅葉

山錦紅葉

山路落葉

物 古 古 古

紅葉淺深

紅葉を
紅葉を延(延)
紅葉の面(面)に

紅葉似錦 後唐莊宗

紅葉如雨　後秋のとかの雨とゆえて降る紅葉を　不識讀人
霧中紅葉　今眺望のきりくせばきりくせばきりくと霧の中に
ほのかに見ゆる紅葉の錦哉きりくと霧を
同秋景のきまゝ（峰のこと
雲裏紅葉　雲の上の錦ともいふべきほのかに見ゆる秋景のさまをいふ
指雲の錦ともいふべきの紅葉を秋景
紅葉ときわたる雁ともいふべきの川霧を
森深紅葉　森深きもの川霧をぬきりくと
指梢ちりのこれる紅葉のわくごとく
紅葉透霧　秋霧のきまゝのきりくと
紅葉帯雫　未だ乾かぬ紅葉のうへに雫のこぼれたる
十分色紅葉　打ふるさびくとある紅葉
指人　人もまず霜ふる前をきそこれなどにて木葉の
今心ひかれきりくと
後秋のとかの雨とゆえて降る紅葉を　不識讀人
今眺望のきりくせばきりくせばきりくと霧の中に
ほのかに見ゆる紅葉の錦哉きりくと霧を
同秋景のきまゝ（峰のこと
雲裏紅葉　雲の上の錦ともいふべきほのかに見ゆる秋景のさまをいふ
指雲の錦ともいふべきの紅葉を秋景
紅葉ときわたる雁ともいふべきの川霧を
森深紅葉　森深きもの川霧をぬきりくと
指梢ちりのこれる紅葉のわくごとく
紅葉透霧　秋霧のきまゝのきりくと
紅葉帯雫　未だ乾かぬ紅葉のうへに雫のこぼれたる
十分色紅葉　打ふるさびくとある紅葉
指人　人もまず霜ふる前をきそこれなどにて木葉の
今心ひかれきりくと

高倉院　讀人不知
御製　公任
權中納言　枕草子大下
源重之　能宣

深山紅葉　後秋ごとに深山の紅葉ハ雨ふらずとも人のふみ
分ケ入ル人モナキ　わけ入る人もなき深山の紅葉ハ雨ふらずとも
錦ヲ敷ケリ　錦を敷けりとハ紅葉の厚くかさなりて
錦のごとくなるをいふ
里紅葉　里近き紅葉ハ深山の紅葉ハ人もなきゆへ
散ルヲ惜ム　ちるをおしむ
歌紅葉　歌に紅葉ハ古今集ハじめ代々の歌集に
代々ニ出ヅ　出でゝ何ふるき詞ともいふべからず
指古今　古今ハ延喜の御門の御撰集にて
指延喜　延喜ハ醍醐天皇の御年号なり
指ちはや　ちはやぶるハ神にかゝる枕詞
指龍田　龍田ハ大和の国の名所
指神代　神代ハ天地開闢より人皇
指神奈備　神奈備ハ三輪の山の名
指三輪　三輪ハ大和の国の名所
指ちはやぶる　ちはやぶるハ神にかゝる枕詞
指龍田川　龍田川ハ大和の国の名所
指もみぢ葉を流す　もみぢ葉を流すハ秋ハ風ふきて
紅葉を吹ちらすゆへ川水に
もみぢ葉の浮ミ流るゝをいふ
指もみぢ葉の浮ミ流るゝ　もみぢ葉の浮ミ流るゝハ
秋ハ風ふきて紅葉を吹ちらすゆへ
川水にもみぢ葉の浮ミ流るゝをいふ

紅葉延　物　未だ木の葉小雨吹くせぬ大井人うち詠もせ
野紅葉　後　秋風小萩のみぢ葉いろ〳〵詠之
　　物　日数へて小嵐風をこそ詠のもち歌
原紅葉　後　金そゝぎ木の梢やいだこちごつゝ詠
所に紅葉　万　古への初もみぢ葉を手折もそ今人のあるこゝろ後
　　後　漫さ河風小そ吹ひそ紅葉の美しき増り
松方紅葉　秋　萩黒木の葉もみぢ葉よ望れて初のもの〳〵小秋ぞ
紅葉交れ松邊紅葉　万　いとゞ紅葉つゝそゝぐまき小志田山松のみ独み色かくれ　後恵
名所紅葉　今　ひさ〳〵そゝぐまき小志田山松の白く統ひるまで小紅葉の美をそんとぞ　後
　　小侍従
　　後　おもしろき家ゝ松の白く統ひるまで小紅葉の美をそんとぞ
　　千　志田山松の村色すらせべいぞくおる綾もまで
　　有　枝そを指の紅葉なるらせべ松いそ〳〵秋をもま　後辨
　　万　元色の山もみぢ葉なるうぐまれもの秋風今〳〵吹ぞ　後人丸
　　後　打ぬれていぎやぎ綾山邨そ紅葉の美んうそん　堯孝

り場紅葉　"　さらの山も守る山人紅葉せそる秋いきおろう　今
　　初　いつそ〳〵そゝぬ紅葉の錦小ろれ二村のいと〳〵　能元
馬上見紅葉　千　〳〵そんが嵐のいと大井河紅葉吹ろれ名小社　後恵
紅葉堰を　後　松はいまぐ遠〳〵とぐ葉の美小のまゝ初ろれ　後恵
関路紅葉　初　夕さんが河ういそぐんをみち葉小下紅山いそる　宗長
社頭紅葉　続　しぐ〳〵ふる初をとぐめんとぐ葉の美ふるぐ　能元
　　"　もぢ葉小ぬいへうぐそ綾〳〵うしぐくふる秋や家松とそる
　　春　吉野山初ぎと着うそ秋小紅葉をわるの色　後恵
　　"　林のまゝもちの下紅葉の秋小松初んが精小ふるの〳〵色　宗長
社邊紅葉　初　初時雨るの秋のもぢ葉はる紅葉やぬぎと安まぐ　宗長
古寺紅葉　続　嵐ぐ林〳〵山の禁ぢはる紅葉の錦小ろれ後　後恵
紅葉幣　末　のおかふる秋の錦の秋れ紅葉ぐろ　不識
　　高　式後へぬぎぐをわくぐぎを白山紅葉の錦秋のまゝく　菅原孝標

後 秋ふく指りくの七曲は紅葉小坂るねさうらけも　読人しらず
指 しこちらへ紅葉のかげ小坂の日数へ枝渡　恵芝へ
月 右々小ふくるとそもちも田姫紅葉の錦を小き流　純宣
後 もみぢのうすく秋へ川こ小錦わくふくと人ぞくるふ　読人しらず
今 立田川秋かれそくわせもむの紅葉の流れぞ
指 水の錦小紅葉の錦をひて河せの流のたれ日で記　建古へ
新 紅る川せで小波るく紅葉ぐれたりのまぐらーの風　也有
後 もみぢのうすく秋へ川こ小錦わくふくと人ぞくるふ　漠岐
今 立田川秋かれそくわせもむの紅葉の流れぞ　経信
代 なつ一の海を引て大井川紅葉のうふ流れを　経信
古 風うくぐ流るもみぢばの流みちうね紅葉こ庵小えて　業平
同 山川小風のうくる立ぢくこへ流れくわ紅葉やう　列樹
後 つくつの秋小を向る山姫のねをで人へ紅葉と　読人しらず
今 末の紅浦小波立秋れべ紅葉と花と咲まがう　興風
代 大井川紅る月ばくえねをうふうる秋のもみぢ　坂上是則

紅葉敷水浮
水上紅葉

"大井川漂つせくく秋れて紅葉の淵と変小る　長方
指 もみぢばのをちをくてる流れが浅くくえぞ山の　読人しらず
古 ふれもの海く浅くくふるあの紅葉の姿や宇せ　躬恒
月 石波小秋のこれそのうふ紅葉のうせる舟とぞ　奥風
今 立田川もみぢ葉るる神うびのこちの小岡　紀友則
"新田向もみぢ乱てうるるやうてうが錦中　読人しらず
"もみぢの流ぐらせぜ立田川あの秋をば誰をう　公
続 流くくのわるものもみぢをとなせの滝小落て　業平朝臣
千 雲そり秋をばあもうくふあの風小乱紅葉ぐれね山川ぞ　経信
詞 立田のわをりくふあの風小乱紅葉ぐれね山川ぞ　内大臣
金 紅葉ふ山秋風吹ぐる立田の流れぞる　参議雅経
月 春羽山紅葉ふ山小錦おりく　宮内卿
水 末松の流ぐ紅葉ふるもみぢ葉せ流のせの秋と流ぐ　宴有

物
古にのこれる秋のあゞ〳〵　家隆
風送二紅葉一
古
秋ぞとも見えぬ木ずゑの紅葉かな
嵐送二紅葉一
千
里
山田の稲の黒い迄それと紅葉哉
金
吹とだにみぢかき夜半の嵐かな　長賀母
紅葉散
古
山風のたゞのまがくにちる葉かな　後人丸
紅葉敷
古
雲のかよひぢふかくとも山姫峰の紅葉か嵐吹まぜる　伊家
紅葉易散
同
初霜のこゝ幾のぬまおそくとも置ぬ間ぞなき　関雄
紅葉敷
金
秋の山紅葉をわけて出る時ぞ袖にちるかず知ける　源重之
千
山姫かたの錦をや風のおりかけ　弁雅
紅葉映雨
物
秋ふくる夜ふかき雨をいそぐ哉　正経
紅葉残梢
古
もみぢ葉をさそふ嵐の梢こそ秋の名残なりけれ　家隆
物
秋ふかき山もとさむみ紅葉せぬ梢ぞ冬の色と見えける　伊家
紅葉映雨
古
もみぢ葉は秋かと見えて染いでん秋の名残の雨ぞ降ける　雅経
紅葉残梢
物
秋のまの山もみぢ葉の散ぬるは木ずゑの雨の名残なりけり　雅経

寄二紅葉一恋懐旧
新
後
見ぬ秋も恋ふる袖の紅葉かな
寄二紅葉一懐旧
物
もみぢ葉をとゞめぬ秋の名残とて猶ふる雨に色ぞ深ける　雅経
紅葉秋深
代
嵐吹峰の紅葉の日かずへて猶くれ行秋ぞ悲しき　家隆
紅葉送暁
物
もみぢ葉を吹な嵐の山風に残る夜ふかき窓の月影　雅経
惜秋
秋下三十八

寒き惜秋
深き惜秋
老ゆ惜秋
惜秋の心
旅中惜秋
妹を留
菅秋
芙蓉妹を

代同じ秋の菅ねと申しむ境人をも
〃年ごとかとまる袖と知るぐる情むんのらぐ
〃四人々ゝ拘ゐかわぐきうくいとぐ河
後拾遺集ま接る人くうくいとぐ河
野分かふてむさでやそ海をも家の
野秋のおもむ後の波やもぐんるぐま
代とむかとまるぐ秋いとまるぐ
同うに分ゐ物うい秋とまるぐ
千ちの高い浅茅ぐとと小深れて秋い来ぐの
野立田姫今はの秋の心
月々名のくやうう春立の日ぐ日数小秋の
代元月のきぬぐれそのの月ぐぐ

寄秋風
菅秋雨
暮妹雲
菅秋雁
菅の杜暁
野菅杜
菅秋来
山家菅杜
田家菅の妹

代後拾遺集ま秋の高のはそいちゐる 菖宗
同のまれ根と秋やせめうんぶるごとか 後人まち
野のまぐ秋ぐうぐくこそ秋ぐいをひき 要そ
代妹の笑ぐ秋ぐいをぐ根かちぐの山をこ 六条右大臣
野ぐとかまぐ永月のまぐぐ高ぬかそる 能因ぁ
野秋のり野ちの浅茅うち拓て峯かあるそ空ぐ 駿河純
菅そり秋の散ぐかく拓い家元結の着ぐそる 菖蒲
代七月のきぬのぐかく拓せぐ拓ぐ人ぐのぐや 曳ま
後撰集日さぐすぐ野の高ぐ秋ぐいをぐ 教綱
野笑える家ぐぐ秋かち色ぐぐいう拓てり野ぐの秋 後朱め
野秋の集ぐ秋ぐいの集ぐ秋ぐ高ぬそぬぐ
後撰集ぐ集ちるぐうぐ山里のことぐをく秋のぬぐい 元輔
野山里ぐ秋の来ぐぐ高ぐ未拓のぐぜ
代ぐぐ山里ぐ秋ぐぐうぐ秋ぐぐぐ秋中ぬ

幽元暮秋　秋月と人と共にそ来のふ埋む者の名を　後為女
暮秋感　変移るこのそや風小さそつれて音ふや秋の誉かるよ　益弁ム
河上暮秋　金河めどとそ九紅葉ふ名ぜ秋のとよりそ賛
伯暮秋　古事ごふまち葉まごそ名代人おごとそのまね拙小絶者とわまいいごや秋九ごり　行家
海辺暮秋　羈旅暮秋　秋名葉九ろそめふとそこうごや難波の浦小秋ぞ　能毋ム
り路暮妹　代家ごふや吟るろふいねうんといそご当る秋小れるう　そ任
惜二暮秋一　暮そり秋のとろ小路ごふ　歌宗
暮秋懐　今うに世小ご家分や秋い秋そ名代ごふ　歌賢ム
同じくふやいとごねを暮る秋とも　孝標め
暮秋傷友　暮秋待人　代秋うる名小ごそ暮ふ　能因ム
古結先小鳴そごめそ暮秋の別いとそ　和泉式ア

九月尽夕
九月尽夜

九月尽と風
九月尽と露
雨中九月尽
山家九月尽
閨中九月尽
秋尽
惜更象

秋の夜の川を上る漁月の光すさまじき哉
秋ごとの東北の日ごとの風そもそも人多き秋の山々や
歌にも文も河原を詠れば終もなからなるをでてれ
秋雲のをえまくを詠れば浮るをでなやなる
古吹うふ秋の嵐のまれもなれむむ山風をわたりて笑
秋山の嵐の声をきくのみならずでなみき
秋霜初雪月初雪
秋霜の初雪月の秋ごとに見るをでなみき
秋萩の枝々をおもふ事なかれ
秋萩の枝々をおもふ事なかれ
秋萩の枝々をおもふ事なかれ

妹朝
秋地儀
悼山

秋深山
杜郵

杜聖忌

秋郵
妹聖遊
秋野歸
杜居所

妹子
秋滝
秋川
秋海

海邊秋
浦秋
秋溪

蘇海
秋舟
蘇里

秋山里

蘇山家

後
汲々て見るもうしろづくの産のうるめ又ろ
拾
のほ焼塩かまるる次ての
たもろびの流れてとどむ漁火に
代
者かう秋の漲ふ風かな
舟
舟をもる田まの浦のタ汐かな
拾
おくれ小栗そてまもる
野
源蒸の里ふけ新さび
秋の秋の稲ていゆくべ
後拾
足波せぐ新かりの
金
のしらへ人をそむいとぐ〳〵く把ふ
物
棚の秀斗る柴の
家者いとぐ〳〵の
代
うふのみる者まのとう
山里はものへたもの暁
後
汲々て見るもうしろづくの産のうるめ又ろ
拾
のほ焼塩かまるる次ての
たもろびの流れてとどむ漁火に
代
者かう秋の漲ふ風かな
舟
舟をもる田まの浦のタ汐かな
拾
おくれ小栗そてまもる
野
源蒸の里ふけ新さび
秋の秋の稲ていゆくべ
後拾
足波せぐ新かりの
金
のしらへ人をそむいとぐ〳〵く把ふ
物
棚の秀斗る柴の
家者いとぐ〳〵の
代
うふのみる者まのとう
山里はものへたもの暁

秋下四十三

社頭秋
妹神祭
秋寺
秋植物
垣木
秋柄
林業
緑弁ニ弁秋
秋草
妹背物
秋獣

妹鳥
秋蛍
秋香
垣ろ
妹背
秋視聴
秋心

妹情

秋を惜む

秋思　妹懐ふ

寄ㇾ秋思

秋思

寄ㇾ秋思

寄ㇾ秋思

寄ㇾ秋思

寄ㇾ秋思

寄ㇾ秋思

秋恨

懐ㇾ妹

妹歌見

秋手向

物秋といへる名ゝ知らねども　土佐内侍
野もせつゝ秋いろ〳〵の花ざかり　と詠り△
代々ながらぞ見ゆる絶間の
金風やなほ吹かへす秋の色　中納言
千遍ゆる君をゝりはゐの秋の袖　伊家
野ㇾ友に秋うつりゆくやどの萩　大蔵卿
月ふかき夜半の衾の露ぞ寒き　経信
大空の秋まるうふかき分こゑ　源俊頼
野ㇾいとゞくや袖もそぼち　後朱
金うらゝ小秋の夢ぬとこゑ　康資王母
野ㇾ夜もすがら秋風ぞ吹く　右京
音ㇾ秋風ふきまどはせる荒はしの　友則
萩ㇾ露ぞこぼるゝ　立房
一つのこる峰の紅葉こそ
後ㇾそのこゑ拾ぞおもへ秋ふかき　松殿基房

物秋の野ㇾ人つゝねをこゑ秋の
物実ㇾ秋のみかは
野ㇾ秋いまぞ初瀬のこゑ参る　源俊頼
後ㇾはかいなきふせやこゑ
野ㇾ秋これぞこゑ礼にくゝ
野ㇾ花のえふこと人ぞうき
〃山里ふくるゝ秋のひまなく
〃大方の秋のこゑのみ
後ㇾ秋やこゑ
続ㇾふくるゝ夜半ひまぞ
野ㇾ暁の露も涙もこぼまぞ
指ㇾ秋ぞまされる　藤原敦家
物ㇾもゝそり紅葉かつ散る　寂蓮
ㇾ今ぞ秋をこぞの神やしるらん

秋下四十五

蛛苞　代　代々ゝばねさと云ふ女郎衆ことをいふり秋のをりふし
秋扇　〃　夏ごろまでつかふ扇のことをいふ女郎さんのいもやさしぬ人のあ
秋鐘　〃　よもをかくうつを扇ものきこゑ小秋風ぞふく　陽明門院　右衛
蛛衣　〃　さらねざらんだをいふ墨の染さく秋の着をいふ　覚助　除紫文
蛛袖　〃　まち夜着といふもの秋こそ夜の川の紅葉やうん　乳政
杜鐵引　〃　秋風いはといふきぬの事ふるく人々よめり　読人しらず　紀国
秋引　〃　後拾遺ふことをうんどぬ逢恋ふ秋をねぎるをいふ　家持
秋引　〃　今しも吹小秋萩をねぎるをいふ　文

古　秋風小わたりぬるまちどをねぎ　村
後拾遺　寒枕ねる夢もうるかこそ　寿子院
代　来ぬ小ふ秋の日数のつもるまゝ　範國
〃　独人の寒の枕とうちふるゝ秋のゝ　雅実朝臣
後拾遺　うちのねの寒さをいとゞまさる　仕
〃　野人ともまれ夜の更ゆく秋の扇　政
詞　山里小ひとりのねざめそふ秋の　好忠
拾遺　寒さをかちねぬ夜の秋うらむ　小野小町古
蛛衣　〃　ことをねぬ寒ふんだ蛛とをいふ　入道前太政
杜　杜鵑秋のそ小寄立つ衣秋の　読人しらず
代　夜ぶかつけ鳴ふ夜の寒月の空小秋風そ　紀貫之
拾遺　秋ふふ夜ふかる人のわすれ　躬恒
蛛　蛛の秋ふ小ふるまとをいふ　重昌

秋下四十六枚

秋引
秋閨扇
秋山路
蛛机

七月
八月
九月
閏九月